

I 字形鋼鐵梁間隔表 眞々ニテ呎

一平方呎ニ於ケル等負荷重 (百七十五封度)

持 距 離 (呎)	成及一呎ノ重量 (吋及封度)									
	24"	20"		18"	15"			12"		10"
	80.	80.	65.	55.	80.	60.	42.	40.	31.5	25.
12	73.7	62.1	49.5	37.4	44.9	34.3	24.9	19.0	15.2	10.3
13	62.7	52.9	42.2	31.9	38.3	29.3	21.3	16.2	13.0	8.8
14	54.1	45.6	36.4	27.5	33.0	25.3	18.3	13.9	11.2	7.6
15	47.1	39.7	31.7	23.9	28.7	22.0	15.9	12.2	9.8	6.6
16	41.4	34.9	27.8	21.0	25.3	19.3	14.0	10.7	8.6	5.8
17	36.7	30.9	24.7	18.6	22.4	17.1	12.4	9.4	7.6	5.1
18	32.7	27.6	22.0	16.6	19.9	15.3	11.1	8.5	6.7	4.6
19	29.4	24.7	19.8	14.9	17.9	13.7	9.9	7.5	6.1	4.1
20	26.5	22.3	17.8	13.5	16.2	12.4	9.0	6.9	5.5	3.7
21	24.1	20.3	16.2	12.2	14.7	11.2	8.1	6.2	5.0	3.4
22	21.9	18.5	14.7	11.1	13.4	10.2	7.4	5.7	4.5	3.1
23	20.1	16.9	13.5	10.2	12.2	9.4	6.8	5.1	4.2	2.8
24	18.4	15.5	12.4	9.4	11.2	8.6	6.2	4.7	3.8	2.6
25	17.0	14.3	11.4	8.6	10.3	7.9	5.8	4.4	3.5	2.4
26	15.7	13.2	10.6	8.0	9.5	7.3	5.3	4.1	3.3	2.2
27	14.6	12.3	9.8	7.4	8.9	6.8	4.9	3.8	3.0	2.1
28	13.5	11.4	9.1	6.9	8.2	6.3	4.6	3.5	2.8	1.9
29	12.6	10.6	8.5	6.4	7.7	5.9	4.3	3.3	2.6	1.8
30	11.8	9.9	7.9	6.0	7.2	5.5	4.0	3.0	2.5	1.7

(備考) 一平方呎ニ於ケル等負荷重三百五十封度ノ時ハ本表ヲ二除シタルモノヲ間隔トス

I 字形鋼鐵梁間隔表 眞々ニテ呎

一平方呎ニ於ケル等負荷重 (百五十封度)

持 距 離 (呎)	成及一呎ノ重量 (吋及封度)						
	9"	8"	7"	6"	5"	4"	3"
	21.	18.	15.	12.25	9.75	7.5	5.5
5	53.7	40.5	29.5	20.7	13.7	8.5	4.7
6	37.3	28.1	20.5	14.3	9.5	5.9	3.3
7	27.4	20.7	15.0	10.5	7.0	4.3	2.4
8	21.0	15.8	11.5	8.1	5.4	3.3	1.8
9	16.6	12.5	9.1	6.4	4.3	2.6	1.5
10	13.4	10.1	7.4	5.2	3.4	2.1	1.2
11	11.1	8.3	6.1	4.3	2.8	1.8	1.0
12	9.3	7.0	5.1	3.6	2.4	1.5	0.8
13	7.9	6.0	4.4	3.1	2.0	1.3	
14	6.9	5.2	3.8	2.6	1.8	1.1	
15	6.0	4.5	3.3	2.3	1.5	0.9	
16	5.2	4.0	2.9	2.0	1.4		
17	4.7	3.5	2.6	1.8	1.2		
18	4.1	3.1	2.3	1.6	1.1		
19	3.7	2.8	2.0	1.4	1.0		
20	3.4	2.5	1.8	1.3			
21	3.0	2.3	1.7	1.2			
22	2.8	2.1	1.5	1.1			

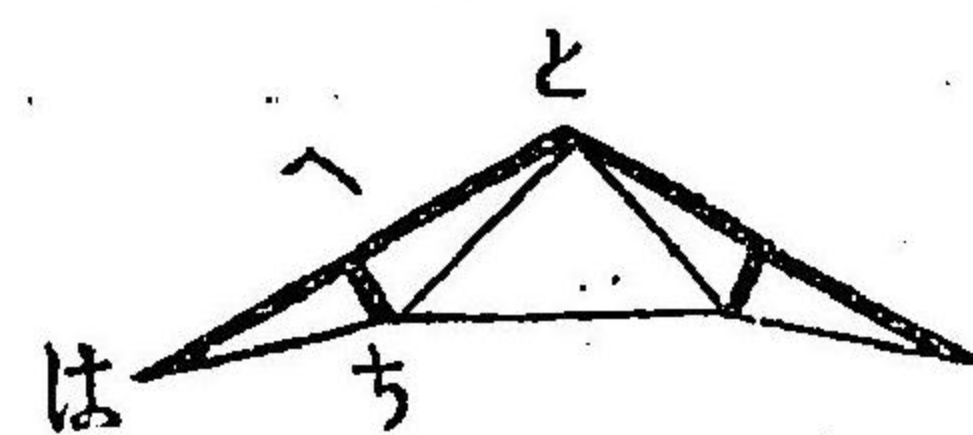
(備考) 一平方呎ニ於ケル等負荷重三百封度ノ時ハ本表ヲ二除シタルモノヲ間隔トス

鐵造小屋寸法表

第一表

張間 (尺)	抗伸材 (圓徑)			斜柱(積) (平方吋)	合掌 (吋)
	はち (吋)	ち (吋)	とち (吋)		
20	$\frac{13}{16}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{1}{2}$	0.7	$3 \times 2 \times \frac{3}{4}$
22	$\frac{13}{16}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{9}{16}$	0.8	$3 \times 2\frac{1}{4} \times \frac{3}{4}$
24	$\frac{7}{8}$	$\frac{11}{16}$	$\frac{9}{16}$	0.9	$3 \times 2\frac{1}{2} \times \frac{3}{8}$
26	$\frac{15}{16}$	$\frac{11}{16}$	$\frac{5}{8}$	0.9	$3 \times 2\frac{1}{2} \times \frac{7}{16}$
28	$\frac{15}{16}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{5}{8}$	1.0	$3 \times 2\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}$
30	1	$\frac{3}{4}$	$\frac{11}{16}$	1.1	$3\frac{1}{2} \times 2 \times \frac{1}{2}$
32	1	$\frac{3}{4}$	$\frac{11}{16}$	1.1	$3\frac{1}{2} \times 2\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}$
34	$1\frac{1}{16}$	$\frac{13}{16}$	$\frac{11}{16}$	1.2	$4 \times 3 \times \frac{1}{2}$
36	$1\frac{1}{16}$	$\frac{13}{16}$	$\frac{3}{4}$	1.3	$4 \times 3\frac{1}{4} \times \frac{1}{2}$
38	$1\frac{1}{8}$	$\frac{7}{8}$	$\frac{3}{4}$	1.4	$4\frac{1}{4} \times 3\frac{1}{4} \times \frac{1}{2}$
40	$1\frac{1}{8}$	$\frac{7}{8}$	$\frac{3}{4}$	1.4	$4\frac{1}{2} \times 3\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}$

百七十三



間隔 十尺

張上 三十分ノ一

勾配 五寸 石盤葺

I字形鋼鐵梁間隔表 眞々ニテ呎

一平方呎ニ於ケル等負荷重 (百七十五封度)

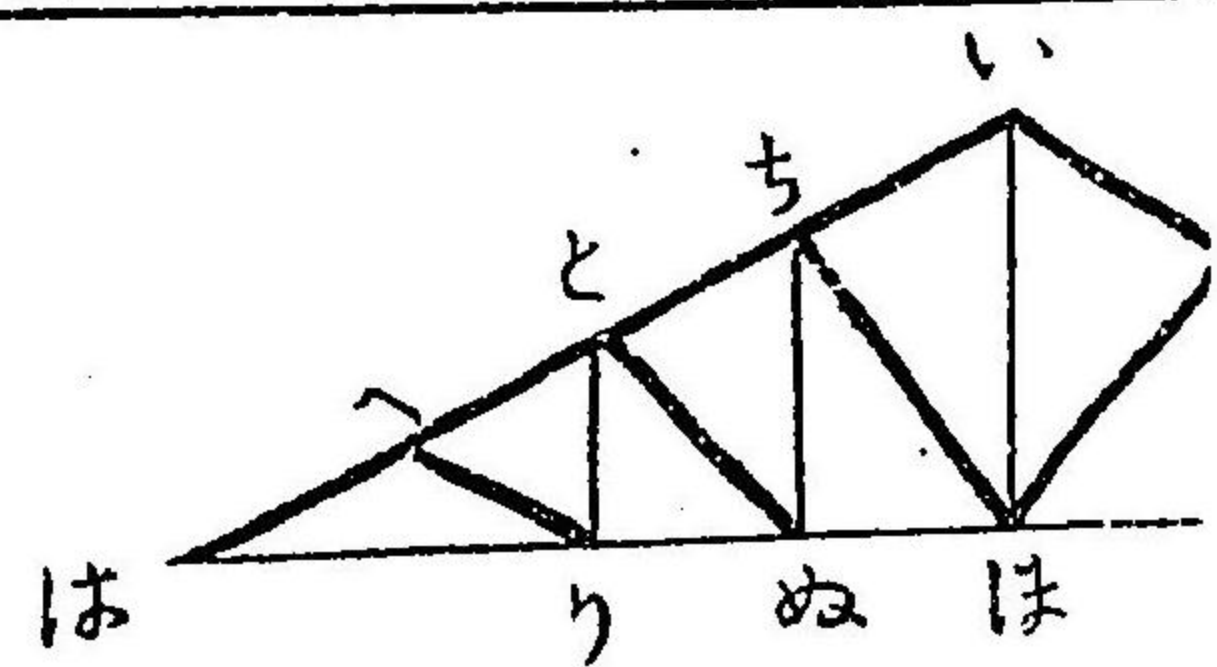
持距 放離 (呎)	成及一呎ノ重量 (吋及封度)						
	9"	8"	7"	6"	5"	4"	3"
	21.	18.	15.	12.25	9.75	7.5	5.5
5	46.0	34.7	25.3	17.7	11.8	7.3	4.0
6	32.0	24.1	17.5	12.3	8.2	5.1	2.8
7	23.5	17.7	12.9	9.0	6.0	3.7	2.1
8	18.0	13.5	9.9	6.9	4.6	2.8	1.6
9	14.2	10.7	7.8	5.5	3.6	2.3	1.2
10	11.5	8.7	6.3	4.4	3.0	1.8	1.0
11	9.5	7.1	5.2	3.7	2.4	1.5	0.8
12	8.0	6.0	4.4	3.1	2.1	1.3	0.7
13	6.8	5.1	3.7	2.6	1.7	1.1	
14	5.9	4.4	3.2	2.3	1.5	0.9	
15	5.1	3.9	2.8	2.0	1.3	0.8	
16	4.5	3.4	2.5	1.7	1.2		
17	4.0	3.0	2.2	1.5	1.0		
18	3.6	2.7	2.0	1.4			
19	3.2	2.4	1.8	1.2			
20	2.9	2.2	1.6	1.1			
21	2.6	2.0	1.4	1.0			
22	2.4	1.8	1.3	0.9			

(備考) 一平方呎ニ於ケル等負荷重三百五十封度ノ時ハ本表ヲ二除シタルモノヲ間隔トス

百七十二

第三表

張間 尺	抗伸材 (圓徑)						抗縮材(積)			合掌(尺)
	はり (吋)	りぬ (吋)	ぬほ (吋)	さり (吋)	ぬち (吋)	いほ (吋)	へり (平方吋)	さぬ (平方吋)	ちほ (平方吋)	(吋)
40	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{8}$	1 $\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1	1.4	1.6	2.1	4 $\frac{3}{4}$ × 3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{5}{8}$
42	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{8}$	1 $\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1	1.4	1.7	2.2	5 × 3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{5}{8}$
44	1 $\frac{9}{16}$	1 $\frac{7}{16}$	1 $\frac{5}{16}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1 $\frac{1}{16}$	1.5	1.8	2.3	5 × 3 $\frac{3}{4}$ × $\frac{5}{8}$
46	1 $\frac{9}{16}$	1 $\frac{7}{16}$	1 $\frac{5}{16}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1 $\frac{1}{16}$	1.6	1.9	2.4	5 $\frac{1}{4}$ × 3 $\frac{3}{4}$ × $\frac{5}{8}$
48	1 $\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1 $\frac{1}{16}$	1.6	2.0	2.5	5 $\frac{1}{2}$ × 3 $\frac{3}{4}$ × $\frac{5}{8}$
50	1 $\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{9}{16}$	1 $\frac{1}{8}$	1.7	2.1	2.6	5 $\frac{3}{4}$ × 3 $\frac{3}{4}$ × $\frac{5}{8}$
52	1 $\frac{11}{16}$	1 $\frac{9}{16}$	1 $\frac{7}{16}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{8}$	1.8	2.2	2.7	5 $\frac{3}{4}$ × 4 × $\frac{5}{8}$
54	1 $\frac{11}{16}$	1 $\frac{9}{16}$	1 $\frac{7}{16}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{8}$	1.9	2.3	2.8	6 × 4 × $\frac{5}{8}$
56	1 $\frac{3}{4}$	1 $\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	1 $\frac{3}{16}$	2.0	2.4	2.9	6 × 4 $\frac{1}{4}$ × $\frac{5}{8}$
58	1 $\frac{3}{4}$	1 $\frac{5}{8}$	1 $\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	1 $\frac{3}{16}$	2.1	2.5	3.0	6 × 4 $\frac{1}{2}$ × $\frac{5}{8}$
60	1 $\frac{13}{16}$	1 $\frac{11}{16}$	1 $\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	1 $\frac{3}{16}$	2.2	2.6	3.0	6 × 4 $\frac{1}{2}$ × $\frac{3}{4}$

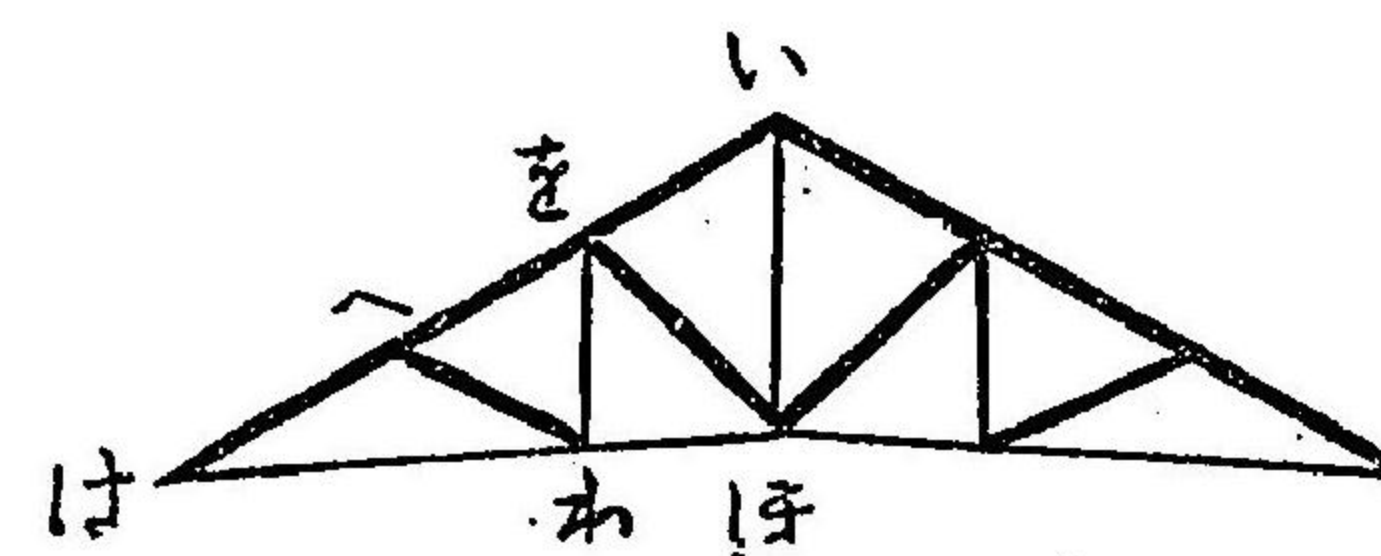


間隔 十尺
張上 三十分一
勾配 五寸 石盤葺

百七十五

第二表

張間 尺	抗伸材 (圓徑)				抗縮材(積)		合 掌
	はわ (吋)	わほ (吋)	をわ (吋)	いほ (吋)	へわ (平方吋)	ほを (平方吋)	い は (吋)
20	1 $\frac{5}{8}$	1 $\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	0.8	0.9	3 $\frac{1}{4}$ × 2 $\frac{1}{2}$ × $\frac{7}{16}$
22	1 $\frac{5}{8}$	$\frac{7}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	0.9	1.0	3 $\frac{1}{2}$ × 2 $\frac{1}{2}$ × $\frac{7}{16}$
24	1	$\frac{7}{8}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{1}{16}$	1.0	1.1	3 $\frac{1}{2}$ × 2 $\frac{3}{4}$ × $\frac{7}{16}$
26	1 $\frac{1}{16}$	1 $\frac{5}{16}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{1}{16}$	1.1	1.2	3 $\frac{3}{4}$ × 2 $\frac{3}{4}$ × $\frac{7}{16}$
28	1 $\frac{1}{16}$	1	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{1}{16}$	1.2	1.3	4 × 2 $\frac{3}{4}$ × $\frac{7}{16}$
30	1 $\frac{1}{8}$	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	1.2	1.4	4 × 3 × $\frac{1}{2}$
32	1 $\frac{3}{16}$	1 $\frac{1}{16}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{3}{4}$	1.3	1.5	4 $\frac{1}{4}$ × 3 × $\frac{1}{2}$
34	1 $\frac{3}{16}$	1 $\frac{1}{16}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{16}$	1.3	1.5	4 $\frac{1}{2}$ × 3 × $\frac{1}{2}$
36	1 $\frac{1}{4}$	1 $\frac{1}{8}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{16}$	1.4	1.6	4 $\frac{1}{2}$ × 3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{2}$
38	1 $\frac{1}{4}$	1 $\frac{1}{8}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{16}$	1.5	1.7	4 $\frac{3}{4}$ × 3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{2}$
40	1 $\frac{5}{16}$	1 $\frac{3}{16}$	$\frac{1}{2}$	1 $\frac{3}{16}$	1.5	1.7	4 $\frac{3}{4}$ × 3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{5}{8}$



間隔 八尺
張上 三十分一
勾配 五寸 石盤葺

百七十四

○鐵造小屋計畫心得

- 一 可成多數ノ抗伸材ヲ使用スベシ
- 二 抗縮材ノ長ハ可成之ヲ減少スベシ
- 三 母屋ハ支持點ノ直上ニ取附クベシ左スレハ合掌ヲシテ單純ナル抗縮材
タラシメ得ベシ但シ母屋ノ位置若シ此心得ニ反キ支點間ニアル時ハ合
掌ハ壓縮力ニ抗スルト共ニ橫斷力ニ抵抗セザルベカラズ
- 四 斜柱間ノ距離ヲ過大ナラシムル時は大ナル合掌ヲ要スルヲ以テ勉メテ
適度ナラシメザルベカラズ
- 五 接合用ノ鐵物ハ可成鍊鐵製トナサ、ルベカラズ
- 六 鍊鐵製ノ接合鐵物ハ可成複雜ナル形体ヲ避ケ單簡ナルモノヲ撰用スベ
シ
- 七 小屋組ノ間隔ハ張間四分ノ一乃至八分ノ一ト定ムルヲ最モ適當ナリト

八 而シテ若シ此制限ヲ守ラザルハ材料ノ濫費ヲ免レザルモノナリ
方形造ハ切妻造ニ比シ其經費多額ヲ要スレ、風害ハ方形ノ分損害ヲ生
ズル事鮮シ

九 方形造ヲ要スル時ハ垂直ナル支材アル組方ヲ撰用スルニ非ザレバ其目
的ヲ達シ難シ

○鐵材ノ品質及試驗示法書

一 鍊鐵ハ強靱且ツ纖維狀ヲ具備シ等質ニシテ試驗ノ上左ノ成績ヲ呈スルモ
ノタルベシ

桿鐵

破壞力度	一方櫃ニ對シ三千六百斤以上
彈限	破壞力度ノ半以上
伸張	長サ二十櫃ニ於テ百分ノ二十以上

切斷面ノ減縮 百分ノ二十五以上

標本ノ最小幅員ニ等シク内徑ニ角度百八十二達スル迄打曲ゲ罅裂ヲ生ズ可ラズ

鍛鐵及各種形鐵

破壞力度

形鐵一方糎ニ對シ三千四百斤以上

鍛鐵前全 三千三百斤以上

彈限

破壞力度ノ半以上

伸張

長二十糎ニ於テ百分ノ十五以上

一鋼ハ強靱鍛延性ニシテ等質ノモノタルベシ且ツ試驗ニヨリ左ノ成績ヲ呈スベシ但シ試驗ニ供スル標本ハ各爐毎回ノ製品ヨリ之ヲ切取ルベキモトス

破壞力度

柔鋼一方糎ニ對シ三千六百乃至四千二百斤

半柔鋼一方糎ニ對シ四千乃至四千八百斤

彈限

破壞力度ノ半以上

伸張

長二十糎ニ於テ柔鋼ハ百分ノ二十二以上

上半柔鋼ハ百分ノ二十以上

切斷面減縮

柔鋼ハ百分ノ四十五以上 上半柔鋼ハ百分ノ四十以上

上

標本ハ之ヲ打曲ゲ柔鋼ノ場合ニ於テハ此面ノ相接スル迄半柔鋼ハ其最小幅員ノ一倍半ニ相當スル内徑ニ角度百八十二達セシメ何レモ些少ノ罅裂ヲ呈ス可ラズ

試驗標本ノ斷面積ハ三方糎以上タルベシ其削製ニ際シ原品ノ兩面ヲ存スルヲ可トス

一展成鐵及鋼ハ總テ筋目氣泡渣跡欠角等ナク完全ナルモノタルベシ

一展成鐵及鋼ニシテ其斷面積ニ於テ所定ノ面積ト相達スルコト百分ノ二以上ニ達スルトキハ之ヲ排斥スルコトアルベシ

- 一 鑄鐵ハ強靱ニシテ灰色種タルベク其二五極角ノモノヲ徑間一五米ニ架シテ中央ニ二百二十斤ノ重量ヲ掛ケ破壊セザルモノタルベシ
- 一 實形ノ眼桿ヲ切斷スルトキハ其破壊力度ハ同種用材ノ標本試験ニ於ケル破壊力度ノ百分ノ九十ヲ下ル可ラズ且ツ破壊ノ個所ハ必ず桿ノ胴中ナラサル可ラズ

以上指定スル所ノ各種用材ハ現今歐米ノ市場ニ於テ橋梁用材トシテ賣買スルモノニシテ將來我國ニ於テ製造スルニ甚シキ困難ナルベシ

○製作示法書

- 一 作工ハ總テ精緻ヲ要ス
- 一 各部分ノ製作ハ總テ監督技師ノ指示所ノ圖面通りタルベシ
- 一 各部分ノ長サハ全温度鐵鋼尺ヲ以テ之ヲ測ルベシ
- 一 用材ハ黑熱ニ於テ之ニ鈍撃ヲ加フ可ラズ

- 一 串孔ハ部分ニ正直角ニ之ヲ鑽スヘシ
- 一 串孔ノ徑ハ半耗以上串ノ徑ヲ超過スベカラズ
- 一 但シ横材ニ屬スルモノハ一耗迄超過セシムルコトヲ得
- 一 眼桿ハ最も慎重ニ之ヲ撓メ同種類ノモノハ之ヲ束ネ同温度ニ於テ一回ニ之ヲ鑽孔スベシ結構ニ於ケル眼桿ノ位置相互並行セス中真線ヲ去ルコト百分ノ一ノ斜度ニ達スルトキハ其頭部ヲ緩屈シテ串ニ直角ナラシムベシ
- 一 串ハ慎重ニ之ヲ旋削スベシ
- 一 綴釘ニハ機械ヲ用ユルヲ可トス
- 一 綴釘ハ其穴ヲ全ク充實スベシ若シ否ラザルトキハ直ニ之ヲ切取り新ニスヘシ
- 一 綴釘ニシテ其頭部ノ不完全ナルモノ若シクハ胴ト中真ヲ一直線ニ有セザルモノハ之ヲ切取り新ニスベシ
- 一 鋼ヲ用ユル部分ニ於ケル綴釘ハ鋼タルベシ

- 一 綴釘穴ノ配置ハ慎重ヲ以テシ其隣接材ニ於ケル孔ノ不調ハ削穿シテ之ヲ調整シ決シテ打調桿ヲ用ユベカラズ
- 一 鋼ヲ用ユル部材ニ於ケル綴釘孔ハ鑽孔ニヨルカ若クハ壓穿シテ後徑ニ三耗ヲ加フル迄削穿スベシ
- 一 鑽孔若クハ削穿セル綴釘孔ハ釘頭ノ下ニ當ル部分ノ角ヲ削除スベシ
- 一 組立ニ際シ打ツベキ綴釘ノ孔ハ豫メ工場ニ於テ之ヲ調整シ不調ノモノアルトキハ削穿スベシ
- 一 接合面ハ精密ニ之ヲ平削スベシ但飯桁ノ弦材等ハ此限ニ非ズ
- 一 旋削シタル面ハ總テ之ニ白鉛及脂ヲ塗ルベシ
- 一 各部材ハ組立圖ニ示ス如ク相當ノ印記ヲ附スベシ
- 一 用材ハ熱シタル亞麻仁油ヲ以テ組立ノ前後ニ於テ各一回之ヲ塗り其上ニ監督技師ガ指定スル所ノ金屬ペンキヲ二回塗ルベシ
- 一 部材及用材ノ寸法ハ圖面ニ示ス所ノ數字ニ據リ其縮尺ヲ用ユ可ラズ

製作者ハ部材ノ長及組合ニ於ケル錯誤ニ對シテハ其原因ノ何タルニ拘ハラズ責任ヲ負フベキモノトス

一 製作者ハ監督技師ノ認可ヲ得ズシテ工事上何等ノ變更ヲ爲ス可ラズ

一 監督技師若クハ其代表者ニ於テ作工及用材ノ検査ヲ行フニ當リ製作者ハ此ニ充分ノ便利ヲ與ヘ又タ無償ニテ試験機ヲ使用セシメ且ツ標本ヲ供スルノ義務アルモノトス

(以上ハ土木工業資料ニ掲載セル廣井博士ノ橋梁示法書ヨリ拔萃シタルモノナリ)

○ 鐵 釘 (市中ニテノ通稱及正寸)

通 稱	正 寸	用 途
伊セニ寸 大ニ寸	正六七分	上等ノ日本普請ニ用ユ薄物用 天井板類ノ薄物ニ用ユ

大 三寸	正 九分	四分板用
四 寸	正 一寸一分	六分板用
花 五寸	正 一寸三分	
中 五寸	正 一寸六分	
大 五寸	正 二寸二分	板割類ヨリ一寸板
皮 通	正 二寸五分	上等普請ノ板割類
三 百目	正 三寸	
四 百目	正 四寸	

○洋 釘

(一樽百斤即チ十六貫目入佛國ヨリハ木帶獨逸國ヨリハ蔓籐ナリ)

名稱(俗稱)	原ノ長ッ	目方百目ニ付概數
五寸釘(六番)	六 吋	二 十 本

四 寸釘	五 吋	二 十 六 本
三 寸五分釘	四 吋二分ノ一	三 十 本
三 寸三分釘	四 吋	三 十 七 本
三 寸釘	三 吋二分ノ一	四 十 九 本
二 寸五分釘	三 吋四分ノ一	六 十 七 本
二 寸釘	二 吋四分ノ一	百 九 本
一 寸六分釘	二 吋	百 五 十 二 本
一 寸四分釘	一 吋七分ノ五	二 百 二 十 七 本
一 寸二分釘	一 吋二分ノ一	五 百 八 十 八 本
一 寸釘	一 吋四分ノ一	七 百 七 十 本
八 分釘	一 吋	九 百 三 十 五 本
六分釘(十七番)	七 分ノ五 吋	千 五 百 七 十 一 本

長ッハ同一ニシテ太キト細キアリ直徑ヲ示ス要アリ本表ハ細長キ形ナリ

○釘通板一坪積

寸	法	真々一尺二寸 六通打	真々一尺五寸 五通打	真々二尺 四通打	真々三尺 三通打	真々六尺 二通打
二寸明キ打	百八十本	百五十本	百二十本	九十本	六十本	
二寸五分明キ打	百五十六本	百三十本	百四本	七十八本	五十二本	
三寸明キ打	百二十本	百本	八十本	六十本	四十本	
三寸五分明キ打	百二本	八十五本	六十八本	五十一本	三十四本	
四寸明キ打	九十本	七十五本	六十本	四十五本	三十本	

○釘ノ力

一、二寸板ヲ正二寸五分ニテ打付ケ横ニ引ク時ハ左ノ听數ニテ抜ケルナリ
 松ノ類ナレバ 平均四百五十听
 檜ノ類ナレバ 同 四百九十听

一、正一寸七分釘ヲ松ノ類ニ打込ミテ真直ニ引ク時左ノ重量ニテ抜ケルナリ
 長八分四厘打込ミタル時 百八十七听
 長一寸三分打込ミタル時 三百二十七听
 長一抔ニ打込ミタル時 五百三十听
 一、釘ハ鍊鐵ニテ作りタルモノ一番力強シ長ハ木厚ノ二倍半ト定ムルヲ可ト
 ス鋼鐵ニテ作りタル釘アリ

○船釘(百本ニ付)

五 寸 壹貫四百目 四 寸 壹貫貳百目 三寸五分 六百目
 三 寸 五百目 二寸五分 三百五十目

○貝折釘(百本ニ付)

六 寸 壹貫七百目 五 寸 壹貫壹百目 四 寸 八百五十目
 百八十七

三 寸 六 百 目

○逆目釘 (百本ニ付)

三 寸 五 百 六 十 目 二 寸 三 百 七 十 目

○逆目釘寸法

- 一 短冊鐵物ノ幅八分ノトキ 直徑貳分
- 二 全 幅壹寸貳分ノトキ 全 三分
- 三 全 幅壹寸六分以上ノトキ 全 四分

但逆目釘ノ長ハ不得止場合ノ外ハ直徑ノ八倍以上ト定メ格好ハ餘リ
 尻コケニ成ラザルヲ可トス
 又前記寸法ハ單ニ逆目釘ノミヲ使用スルトキ及逆目釘トボールトヲ
 並用スル場合トノ別ナク均シク應用スベキモノニシテ若シ右ノ規定

ニ相當セザルモノアルトキハ左ノ標準ニ據リ寸法ヲ定ムベシ

(甲) 短冊鐵物ノ幅壹寸ヲ超過セザルトキハ逆目釘ノ直徑ハ鐵物幅ノ
 四分ノ一以上

(乙) 短冊鐵物ノ幅一寸ヲ超過スルトキハ逆目釘ノ直徑ハ鐵物幅ノ五
 分ノ一以上

○短冊、箱及卷鐵物 (厚四分ノ一吋(貳分))

幅壹吋半(壹寸貳分)ノ時ハ	ボルト	徑五分	掛六寸
幅貳吋 (壹寸七分)ノ時ハ	ボルト	徑六分	掛六寸
幅貳吋半(貳寸)ノ時ハ	ボルト	徑六分	掛六寸

○錄

長	片爪ノ長	拾挺ノ目方	長	片爪ノ長	拾挺ノ目方
七寸	二寸五分	三百六十目	三寸	一寸二分	五十九目
六寸	二寸	二百五十目	二寸	九分	三十二目
四寸五分	一寸五分	百六十目			

(備考) 鐵銹ハ長サ一寸ニ付幅厚各一分ノ割爪長サハ銹長サノ四ツ割一分平銹厚ハ幅ノ半分ノ割

○瓦釘

一尺瓦	長正寸八寸三分ヨリ九寸六分迄	百本ノ目方	八百四十目
九寸瓦	長(全)八寸三分ヨリ八寸六分迄	全	七百四十目
八寸瓦	長(全)七寸三分ヨリ七寸六分迄	全	六百三十目

○合釘

三寸五分合釘	長正寸二寸五分ヨリ二寸八分迄	百本ノ目方	百三十目
三寸合釘	長(全)一寸九分ヨリ二寸二分迄	全	八十目
二寸合釘	長(全)一寸六分ヨリ一寸八分迄	全	五十目
一寸合釘	長(全)九分	全	十四目

○山椒鋸 (鐵製)

缺球狀ノ頭ヲ有ス足ノ長サ四分五分、六分、七分、八分、九分、一寸ノ種類アリ足ハ皆殺落狀ニシテ頭ハ薄キ鐵板ヲ以テ先キニ機械ニテ作り足ハ鐵着シタルモノナリ

○平鋸 (鐵製)

楕圓形ノ頭ニシテ足長七分、六分、五分、四分、三分等ノ種類アリ製造法前全斷

○ 鋏 甲 鋏

圓形ノ頭ニ宣徳色ヲ施シタルアリ又頭ハ稍凸形ニシテ色附ノモノト素銅ノ二種アリ足ハ角足殺落狀ナリ足長一寸、一寸七分ノ種類アリ

○ 四 頭 菱 鋏

其頭遍平ナレモ少シク山形ニ打チテ四周へ勾配ヲ附ケタルモノナリ一寸七分、五分ノ種類アリ

○ 糠 鋏

洋鋏ト同製ニシテ其頭ヲ平磨シタルモノ足長サ五分、四分、三分、二厘三厘ノ種類アリ

○ 眞 鍮 鋏

鐵ハ錆ビ易ク銅ハ柔軟ナル場合ハ眞鍮鋏ヲ使用スベシ又美麗ナル色彩ヲ添フベシ大小形狀一ナラズ薄キ、コツベル板ヲ圓ク截リ殺落狀ノ角足ヲ鍮着シタルモノニシテ縁伏セタル頭ノ者足長八分、六分等缺球ノモノ五分、楕圓ノモノ足長一寸、七分、六分、五分、四分、三分、五厘、三分アリ、平形ノモノ二分五厘等ノ種類アリ

○ 螺 鋏 (木 捻 子)

鐵若クハ眞鍮製其頭ノ形ニ平アリ丸アリ平ハ埋頭ニシテ丸形ハ楕圓形頭ナリ丸頭ハ製造ノ勞多キ故ニ平ヨリ約四割方價ヲ増ス
東京製ノ大ハ三寸小ハ二分ニ至リ番號ハ一番ヨリ二十番迄一哥何程トテ賣賣ス殆ンド鐵ノ如ク廉ナリ左表ハ參考トスベキモ常ニ使用ノ多キモノハ二

寸一寸四分一寸六分五分四分三分等ナリ丸頭螺鈺ハ一番ノ頭ハ直徑一分二厘ニシテ一番毎ニ二厘ツ、ヲ増加スル定メナリ
 左表ハ〇〇番ヨリ四十番ニ至ルモノ一番毎ニ直徑六十四分ノ一時ヲ増加セ
 ルモノトス

番號	直徑(吋)	番號	直徑(吋)	番號	直徑(吋)
〇〇	三十二分ノ一	〇	六十四分ノ三	一	十六分ノ一
五	八分ノ一	一〇	十六分ノ三	一四	四分ノ一
一八	十六分ノ五	二二	八分ノ三	二七	十六分ノ七
三三	二分ノ一	四〇	八分ノ五		

○普通ノ用ニ供シ得ベキ鐵製

螺鈺ノ長及直徑

長(吋)	出來合品ノ番號	長(吋)	出來合品ノ番號
四分ノ一	〇番ヨリ十六番迄	八分ノ三	一番ヨリ十六番迄
二分ノ一	一番ヨリ十六番迄	八分ノ五	一番ヨリ十八番迄
四分ノ三	二番ヨリ二十番迄	八分ノ七	三番ヨリ二十四番迄
一時	四番ヨリ二十六番迄	一時四分ノ一	五番ヨリ二十八番迄
一時半	六番ヨリ三十番迄	一時四分ノ三	七番ヨリ三十二番迄
二吋	八番ヨリ三十六番迄	二吋四分ノ一	九番ヨリ三十八番迄
二吋半	十番ヨリ四十番迄	二吋四分ノ三	十一番ヨリ四十番迄
三吋	十二番ヨリ四十番迄	三吋半	十四番ヨリ四十番迄
四吋	十六番ヨリ四十番迄	四時半	十六番ヨリ四十番迄
五吋	十八番ヨリ四十番迄	六吋	二十番ヨリ四十番迄

○ビーバン氏ノ木捻ノ力算式

$$\text{木捻ノ力} = dPI \times c$$

- d ハ木捻ノ徑
- P ハ捻ト捻トノ間ノ距リ
- I ハ捻ガ木ノ中ニアル處ノ長サ
- c ハ試験ノ上定メタル數ニシテ檜等ナレハ四萬貳千又槻等ナレハ八萬三千ヲ用ユ

今 d ガ八分ノ一時 P ガ十分ノ一時 I ガ四分ノ三時ノ木捻ヲ檜ニ用ヒタル時

$$\text{木捻ノ力} = \frac{1}{8} \times \frac{1}{10} \times 3 \times 42000 = 392.75 \text{「キロポンド」}$$

即チ三百九十貳呎七五迄ノ重ミヲ持ツカアルモノナレバ此ノ凡ソ十分ノ一即チ三十九呎ヲ安心ニ用ヒラル、モノナリ

○ボルトノ割合

ボルトノ圓徑	圓徑六分ボルトニテハ
女捻シノ厚サ	六分七厘五毛
捻頭ノ厚サ	四分五厘
女捻及捻頭ノ徑リ	一寸〇五厘
但シ四角六角トモ同様ナリ	
對角ノ徑リ	一寸二分
座鐵ノ徑	二寸一分
全上ノ厚	二分二厘九毛

○ボルト一組ノ重量表

ボルトノ圓徑	女捻捻頭及座鐵一組ト同一ナル 長サヲ有スルボルトノ長サ	ボルト長一尺ニ付重サ (匁ニテ)
四分(二分ノ一時)	六寸	八十匁
五分(八分ノ五時)	七寸	百二十五匁
	六寸	
	六寸	
	七寸	
	七寸	
	一分	
	六分	
	四分	
	角	
	角	
	角	
	角	

○ホキツトウオールス氏螺旋定則及
安全ナル強度

ボルトノ直徑	長一時ニ於ケル 螺糸ノ數	螺糸ノ底ニ於ケル ボルトノ直徑	安全ナル強サ
四分ノ一時	二十	、一八五九	九十一封度
十六分ノ五時	十八	、二四二三	百五十三
八分ノ三時	十六	、二九四九	二百三十
十六分ノ七時	十四	、三四六〇	三百十六

二分ノ一時	十二	、三九三二	四百十二
十六分ノ九時	十二	、四五二七	五百四十九
八分ノ五時	十一	、五〇八五	六百八十四
十六分ノ十一時	十一	、五七一〇	八百六十
四分ノ三時	十	、六二一九	千二十一
十六分ノ十三時	十	、六八四四	千二百三十八
八分ノ七時	九	、七三二七	千四百十七
十六分ノ十三時	九	、七九五二	千六百七十二
一時	八	、八三九九	噸、八三
一時八分ノ五	七	、九四二〇	一、〇四
一時四分ノ一	七	、一〇六七〇	一、三四
一時八分ノ三	六	、一一六一五	一、五九
一時半	六	、一二八六五	一、九五
			百九十九

一時八分ノ五	五	一、三六八八	二、一六
一時四分ノ三	五	一、四九三八	二、九三
一時八分ノ七	四、半	一、五九〇四	二、九八
二吋	四、半	一、七一五四	三、四七

○ 鋸釘ノ割合

サーウエルリヤム、フエヤバーン氏ノ所説板厚ニ適當セル鋸釘ノ寸法
 厚半吋以内ノ鐵板ニハ鋸釘ノ圓徑板厚ノ二倍ニシテ此ヨリ厚キ板ハ同
 一倍半ナリ右ハ鋸孔ヲ打貫キタル場合ニシテ若シ採拔キタルモノニ在
 テハ少ク輕減スルヲ可トス厚薄不同ノ板ニ在テハ厚キ板ヲ基トスベシ
 鋸孔ノ圓徑ハ鋸釘ノ圓徑ニ比シ十二分ノ一ヲ加ヘ置クベシ
 アンウキン氏ハ數枚ノ鐵板ヲ接合スル場合ニ使用スベキ鋸釘圓徑ヲ定ム其

方法左ノ如シ

鋸釘ノ圓徑ハ板ノ全厚ノ八分一ヘ八分ノ五吋ヲ加ヘタルモノ
 鋸釘ノ高ハ鋸身圓徑ノ三分ノ二ニシテ其圓徑ハ同一倍半乃至二倍トス
 使用セザル以前ノ鋸釘ハ其全長ヲ鐵板全厚ヘ鋸身圓徑ノ二倍半ヲ加ヘ
 タルモノトス

○ 鋸 間

鋸ノ眞々ノ距離ハ荷重ノ性質及所用鋸數ノ多少ニ依リ一定スルヲ得ザレド
 モ普通梁材ノ構成等ニハ三吋ヨリ起リ四吋乃至六吋ニ達スルヲ以テ約圓徑
 ノ四倍乃至五倍ニ相當スルモノトス
 鋸穴ヲ打貫キタル場合ニハ鋸孔間ノ距離ハ鋸ノ圓徑二倍乃至一倍半以上ト
 爲スニアラザレバ孔間ヲ破壞シテ二孔一孔ニ變ズルノ患アリ又板ノ端末ヨ

リ 鉸孔ニ至ル距離ハ少クモ鉸ノ圓徑ト同一ナラシムベキモノトス
 様明ケタルトキハ多少輕減スルモ差支ナシ

○鐵 肘 壺 (二重ニ付何程ト云フ)

重 ネ	徑	男足長サト重ネトノ比	女足長サト重ネトノ比
四寸	二寸	三 倍	一 倍半
三寸五分	一寸七分五厘	三 倍	一 倍半
三寸	一寸五分	三 倍	一 倍半
二寸五分	一寸二分五厘	三 倍	一 倍半
二寸	一寸	三 倍	一 倍半
一寸五分	七分五厘	二寸五分	二寸五分
一寸	五分	二寸五分	二寸五分

八分	全	二寸五分	二寸五分
六分	全	二寸五分	二寸五分

鐵仕上ケ綿色付ケ〔綿色トハ鐵ヲ磨キ燒キチ加ヘ此燒加減六箇數之ヲ眞綿ニテ磨
 擦シ艶ヲ出スナリ廉モノハ「コールドター」ヲ燒付ケテ拭取ナリ〕

○輪 掛 (壺附一組)

長サ三寸、二寸五分、二寸、一寸五分等ノ種類アリ一口何程トテ賣買ス

○鐵 打 掛 (受壺共一組)

長サ六寸、五寸、四寸五分、四寸、三寸五分、三寸、二寸五分、二寸、一寸五分等ノ種類アリ一口何程トテ賣買ス眞鍮打掛モ同種類ナリ

○鐵饅重頭鉸

長三寸徑五分、長二寸五分徑四分、菊座附綿色仕上アリ又座ナシニテ長二寸徑三分、長一寸徑二分五厘ノモノアリ百本何程トテ賣買ス

○眞鍮腰鉸

長二寸五分頭徑三分、長二寸頭徑三分、長一寸五分頭徑二分五厘ノ種類アリ百本何程トテ賣買ス

○鐵蝶番

長三寸又長三寸厚二分、又厚一分五厘、長二寸五分厚一分、長二寸厚八厘、長一寸五分厚五厘何レモ一枚ニ付何程トテ賣買ス

○眞鍮蝶番

長五寸ヨリ五分ヅ、遞減シテ一寸八厘、六厘等ノ種類アリ

○鐵折釘

長三寸五分ヨリ遞減シテ一寸迄綿色仕上ケ外ニ根入附眞鍮モ同種ニシテ外ニ根入座附

○鐵三重折釘

長二寸五分、二寸一寸五分、外ニ座根入附又長二寸究座附ノモノアリ

○鐵丸環 (請壺共)

長二寸五分、二寸、一寸五分、一寸、八分、六分等ノ種類アリ

○鐵越中樞

長三寸、二寸五分、二寸等アリ一個何程トテ賣買ス

○生姜鐵製

長三寸重八分、長二寸五分重六分、長二寸重四分何レモ一組何程トテ賣買ス

○鐵突上ケ錠 (錠共)

長六寸、五寸五分、五寸、六枚羽根、四寸五分、四寸、三寸五分、三寸、二寸五分、二寸、四枚羽根何レモ一個ニ附何程トテ賣買ス

○鐵袖形京錠 (錠共)

長五寸ヨリ五分遞減二寸五分ノ種類アリ一個何程トテ賣買ス

○鐵製地打袖形錠 (錠共)

前全斷

○大小門環甲樽錠附 (鐵製綿色漆塗)

徑五寸ヨリ五分遞減シテ二寸迄ノ種類アリ一個ニ付何程トテ賣買ス

○同斷四葉座樽錠附 (鐵製綿色漆塗)

角并菱形トモ平均四寸三寸五分三寸ハ厚一分板製二寸五分、二寸ハ厚八厘製

○鐵製大小八双鐵物

右仕様鐵厚板ヲ以テ火作り鑢仕上綿色漆指紙并ニ探化粧樽紙附

花先寸法 但シ長サ花先三位折返シ

花先左ノ通ニ付一倍半厚花先六十分ノ一

六寸ヨリ五分遞減シテ二寸五分迄ノ種類

○門鐵物并ニ銀杏頭錠鍵

仕上ケ前同斷ニシテ一貫目何程ト云フ

○鐵車

車真并穴トモ「ダライ」盤掛ケ仕上ゲ

厚	徑四寸	厚	徑三寸五分	厚	徑三寸	厚	徑二寸五分	厚	徑二寸	厚	徑一寸五分	種類
六分		五分		四分		四分		四分		三分		

アリ一個何程トテ賣買ス

○水入形鐵引手 (磨キ綿色附)

長五寸、四寸、三寸五分、三寸、二寸五分等一個何程ト云フ

○真鍮箱錠

長四寸乃至四寸五分幅二寸五分乃至三寸五分座請座共尙錠穴座三個蓋附

○取手座附

白玉ニ金唐草模様附、真鍮楕圓無地、白銅楕圓無地、唐草地彫、鐵製銀色前同斷一

個ニ付何程

二百十

○開キ留 (真鍮製ニヌ引受壺座銀共)

長五寸、四寸五分、四寸、三寸五分、三寸等アリ一個ニ付何程

○クレモン

銀色ニシテ取手上下中請壺トモ唐草地彫長七尺、六尺五寸、六尺、五尺五寸、五尺等一組ニ付何程 (真鍮製、ニツケル銀共好ニ應ズ)

○上ケ下ケ窓滑車

真鍮製徑二寸、一寸五分鑄鐵製同斷アリ

○舶來、カラン

真鍮製口徑一寸二分、一寸八分、六分、四分、三分、二分等アリ

○鐵溝敷鐵

幅六分乃至七分五厘厚一分五寸歩ニ長一寸二分摺鉢頭木捻付

○「エキスパンデッドメタル」 (鐵鋼)

米國ホストン市イースタル、エキスパンテッドメタル會社製造
販賣店 東京市京橋區尾張町一丁目二番地三石商會

形	狀	使用法	一平方尺ノ代價
長サ八尺五寸迄 巾三尺ヨリ八尺迄 隨意ニテ五種アリ		柵、門戶等	九錢五厘ヨリ 十四錢八厘マテ位 (細)

二百十一

巾長 一サ 尺八 寸迄	隨意	壁 下 地	六 錢 位
巾長 一サ 尺五 寸迄	隨意	床、 蛇腹 等	九 錢 位
巾長 一サ 尺八 寸迄	隨意		

○鑄鐵收縮ノ度

收縮ノ度ハ鑄物ノ大サ厚サ及ビ鑄鐵ノ性質ニ依リ同ジカラズト雖モ通常模
型工ハ凡ソ一呎毎ニ八分ノ一吋收縮スルヲ見積ルモノトス

○鑄型割増

真 鉛	長サ一尺ニ付	一分五厘増
錫	全	二分五厘増
亞 鉛	全	二分増
	全	二分五厘増

○鑄造物検査法

- 一 輕少ナル縫ニテ周邊ヲ打チテ凹没スルモノハ恐ラク善良ニシテ組織整一ナルノ兆ナリ右ニ反シテ破片ヲ生ジ毫モ凹没セザルモノハ硬性ニシテ脆弱ナルベシ
- 一 氣泡ハ甚ダ生ジ易クシテ強力ヲ損ズル事大ナルヲ以テ全体ヲ打撃シテ試ムベシ疵傷部ハ亮音ヲ發スル事ナシ
- 一 鑄滓氣泡留釘眞疵等ヲ有スルモノハ特ニ注意シテ拒絶セザルベカラズ
- 一 鑄造物ノ面ハ平滑清淨ニシテ隅角ハ銳尖ナルベシ
- 一 平滑ヲ欠ギ若クハ凸凹アル面積ヲ有スルモノハ鐵ノ組織整一ヲ欠ギタル爲メ生ジタル不平均ナル縮少ノ結果トス
- 一 破面ハ緻密ナル組織ヲ有シ整一ナル青白色ト輝々タル光澤ヲ有スベシ

○鍊鐵ノ試験法

徐々ニ伸張力ヲ加へ或ハ高所ヨリ重量ヲ放下シテ破碎セシメ其伸長及断面ノ縮小並ニ其他ノ現象ニ注意スベシ此準備ナキ時ハ破片ノ形状ヨリ極メテ大要ヲ學ビ得ベシ

強力ニ兼韌性ヲ有セシメンニハ橋梁其他小屋組等ニテハ左ノ二項ニ叶ハシムルヲ例トス

第一 或ル定限以上ノ抗伸力ヲ有スル事

第二 全然破壊ニ至ル以前ニ至リ全長ニ對スル定限以上ノ延長ヲ生ジ乃至ハ或ル定限以上ノ断面ノ縮小ヲ來スヘキ事

但シ右二法中長ニ關スル試験ノ方實際便利ナルモノト知ルベシ
構造物ニ使用スル爲メ種々ナル形体ニ造ル場合ニ在テハ強力及韌性試験ノ外猶ホ熾熱シテ屈曲又ハ捻回等ノ結果ヲ伺察スルノ必要アリ

○鋼鐵ノ試験

一 鍊鐵試験ニ倣ヒ其強性延長其他ノ性質ヲ試験スベシ

一 鋼鐵ヲ打撃スレバ極メテ爽快ナル一種ノ亮音ヲ發ス以テ鍊鐵ト區別スベシ

一 彈力ノ絶大ナルト磁氣ノ保存性トハ鋼鐵一種ノ性質ナリ

○鐵ノ銹止法

先ツ及物又ハ鐵刷毛ナドニテ銹ヲ落シコールター荏ノ油光明丹ノ如キ品ヲ二篇塗り附クルヲ普通ノ法トス鐵橋ナドニテハ左ノ調合ヲ用ユ

石膏	六十匁	コールター	貳升五合
ナフサ	適量		

ナアサハ前ノ貳品ヲ塗ルニ都合好キ丈ケ用ユ

○「ズク」鐵

熔鑄爐ヨリ製出セル粗雜ナル鐵ノ棒ニシテ製鐵業者ハ各種ノ工ヲ加ヘテ百
般ノ用ニ供ス素鐵ノ抱合物ハ恒ニ炭素、硫黃、黃磷、滿俺等及他物ノ少量ニシテ
極メテ有要ナルハ炭素分ナリトス若シ炭素皆無ナルカ、極メテ少量ナル時ハ
性質稍々柔軟質ニシテ展張延伸、鍛合、鍛鍊及強韌諸性ヲ具シ且ツ通常ノ爐熱
ニハ殆ンド熔解セズシテ鋼ノ如キ軟化質ヲ有セザル鐵ヲ得ベシ稍々炭素
ノ多量ヲ抱合スルニ當リテハ其量ノ多少ニ應ジ各種ノ鋼鐵ヲ得ベシ鋼鐵ハ
彈性ニ富ミ展張延伸、固着鍛鍊、鍛合ノ諸性ト種々ノ硬度ヲ生スベキ硬化質及
ビ溶解性ヲ具有スルヲ以テ硬度ノ大ナル能ク鍊鐵ヲ削リ得ベシ、炭素量著大
ナル時ハ堅硬脆弱ニシテ容易ニ熔解スベシト雖ドモ毫モ鍊鍛及鍛合ノ二性

ヲ有セザル鐵鐵トナルベシ

○銑鐵 (二名鑄鐵ト稱ス)

一番灰色銑鐵 鑄鐵中最モ柔軟ニシテ鑄削鑄工ニ適スレドモ其強度ハ小ナ
リ割口ハ暗灰色ニシテ粗糲ナル粒狀ノ結晶ヲ爲シ光澤アリ新ニ切りタル
鉛ノ割口ノ如キ色アリ高熱度ニテ溶解スルモ溶解シテ後ハ粘度少クシテ
最モ流動シ易シ故ニ緻密ノ鑄物裝飾品及ビ鍋釜ノ如キ中空ノ薄キ器具ヲ
造ルニハ此鐵ヲ用ユ而シテ百分ノ〇三乃至〇五七ノ炭素ヲ機械的ニ百分
ノ二乃至四七ヲ化學的ニ含有ス
一番類似ノ銑鐵又此鐵ヨリ粒狀結晶較々小ニシテ整頓スレドモ其質柔軟ナラ
ズ且ツ流動シ易カラザルモノアリ此鐵ハ前者ヨリ強度大ナルヲ以テ強サ
ヲ要スル裝飾品ヲ作ルニ用ヒラル鐵柵門扉等ナリ

二番淡灰色銑鐵 一番ノモノヨリ強度大ナルモ其堅サハ一定セズ割口ハ淡灰色ニシテ光澤ナク結晶ハ中心ニ於テ大キク脇縁ニ於テ小サシ大ナル鑄物ニ適當セリ炭素ヲ化學的ニ含有スルコト前者ヨリ多ク機械的ノ含有ハ少シ

三番白色銑鐵 此鐵ハ一名鍛鐵用銑鐵トモ稱スルホドニ可溶性ヲ有スレモ其質頗ル堅硬ニ過ギ正ニ一番ノ鐵ニ反對ナル傾向アリ其割口ハ暗白色ニシテ光澤少ク結晶小形ナリ此種ニ屬スルモノハ概シテ前者ヨリ低熱度ニシテ熔解スレモ熔解後糊狀ヲナシテ流動シ難シ故ニ専ラ之ヲ以テ鍛鐵ニ變製シ細密ナル鑄造ニハ適セズ百分ノ二ヨリ四七マテノ炭素ヲ化學的ニ三乃至四五七マテヲ物理學的ニ含有ス

○鍛鐵 (一名鍊鐵ト稱ス)

鐵礦ヨリ直ニ製生スルノ方法アリト雖ドモ通常多クハヅク鐵ヨリ精製スル例ニシテ先ツ反射爐中ニ素鐵ヲ溶解シ酸化作用ヲ助長スベキ諸種ノ材料ヲ加ヘテ不淨分ヲ除却スレハ爐中ノ鐵ハ炭素分ノ減ズルニ從ヒ漸次團々タル塊片ト成ルヲ以テ棒頭ニ貫キテ爐ヨリ出シ強大ナル槌ヲ用ヒテ打撃スレバ不淨分ヲ脱却シテ組織緻密ナル粗製鐵ヲ得ベシ其未ダ赤熱ヲ有スルヲ以テ外邊ニ溝ヲ設ケタル回轉器間ニ裝入シ茲ニ始メテ長十尺乃至十二尺ニシテ幅三吋乃至四吋厚四分ノ三吋乃至一吋ヲ有スル鍊鐵棒トナルモ極メテ粗惡ナルヲ以テ殆ンド鍊鐵ト稱スベキ性質ナキヲ以テ數回鍛鐵ノ工ヲ加ヘザルベカラズ此レヲ一番鐵ト稱シテ工用ニ堪ヘズ一度鍛鍊ヲ加ヘタルモノヲ二番鐵ト稱ス大ニ強カヲ増スモ品位未ダ可良ナラズ硬性且ツ脆弱ナルヲ以テ極メテ下等ノ工事ノ外使用スル事ナシ

二番鐵ヲ鍛鍊シタルヲ(B)鐵(通常工用)四回鍛鍊ヲ(BB)五回鍛鍊ヲ(BBB)鐵ト稱ス

鍛合性甚ダ強キヲ以テ製作上最モ利益ナリ二片以上ノ鐵ヲ熱シ攝氏八百二十度ニ至レバ其清淨ナル面ヲ合セテ鍛打シ以テ直ニ相固着セシムルヲ得ベシ若シ其面ヲ清淨ニシ礪砂ノ類ヲ以テ媒介スルトキハ尙ホ低キ熱度ヲ以テ煨合セシメ得ベシ然レモ四百分ノ一ノ比準ヲ以テ炭素ヲ含ムトキハ殆ンド柔鋼ニ同ジク硬質硬勁ナレドモ煨合ノ性ヲ害シ兩片ヲ熱シテ密着一體同体トナラシムルコト能ハズ是鐵ノ良否ヲ識別スルハ之ヲ熱シテ通紅トナシ直ニ冷水ニ投ズルモ軟鐵ハ毫モ其軟ヲ失ハズ否ラザルモノハ益々硬ヲ加ヘテ其形迹殆ンド鋼鐵ニ異ナラズ擇バザルベカラザルナリ

鍛鐵ヲ輾壓シテ條若クハ板ニ展開スルトキハ其分子ノ本體ト集合排列トヲ展延シテ所謂纖維ノ狀トナラシム故ニ平易ニ想像スレバ纖維ノ方向ニ引キテ之ヲ斷タントスレバ抗力大ニ強ク纖維ニ直角ヲナシテ之ヲ扯開スレバ甚ダ易キガ如シト雖ドモ板ノ如キ薄キモノニアラザルヨリハ其實殆ト強弱ノ別ナキモノニ似タリ

熱脆鐵ハ熱シテ通紅ナラシムルハ硬勁ニシテ脆キガ如ク冷カナルトキハ全ク柔軟ニシテ能ク鍛展シ得ベシ故ニ之ヲ熱脆鐵ト謂フ少量ナル硫黃ヲ含有スルニ起因ス

冷脆熱ハ之ニ反シテ冷カナレバ輾チ脆弱ニシテ破壊シ易ケレドモ一旦之ヲ熱スルニ至テハ至重ノ鍛ヲ以テ能ク鍛治シ得ルモノナリ故ニ之ヲ冷脆鐵ト謂フ少量ノ硅酸若クハ燐素ヲ含ム爲メナラン

純良鐵ハ毫モ炭素若クハ硅酸ノ如キ物質ヲ含蓄セズシテ全ク純粹ナルモノナリ

著名ナル鐵ノ採用方

第一 通常ノ鍛鐵ハ船橋或ハ往々軸ヲ作ル

第二 「ヨークシヤ」及ヒ「スタフオールドシヤ」等ノ場所ヨリ製スル B 鐵、二 B 鐵、三 B 鐵ハ製罐用ニ多ク供ス又鍛工用トシテ用ヒラル

第三 「ロームア」ノ鍛工場ヨリ出ル鐵ハ其性質精好ヲ主トセリ而シテ此種ノ

最良ナルモノハ困難ナル鍛鍊ヲナス場合ニ適當ナルノミナラズ常ニ高熱度ニ接スル火室板及突縁ヲ有スル瀛罐用ニ供スル等其用途少カラズ

第四木炭製鐵ハ性質善良ニシテ柔軟ナリ而シテ其最大張力ヲ檢スルハ一平方吋ニ付十八噸乃至二十八噸前後ナリ然レトモ數少キ故ニ使用ノ途多カラズ

○鋼 鐵

鋼鐵ノ堅硬ナル點ハ鑄鐵ニ似タレドモ熔解ノ高度ハ之ニ類セズ其堅牢ナルコト鍛鐵ニ超過シ硬固法ヤキイレヲ施シテ利器ノ材料トナスコトヲ得ベシ此性來ノ本源ハ化學的機械的ニ炭素ヲ含ムニ因ルト云フ

鑄鐵ノ如ク鑄造ヲナシ得ベシト雖ドモ其業ヤ容易ナルモノニアラス鑄造シタル物体ハ多孔質ナルヲ以テ鍛鍊ノ後ニ非ラザレバ堅牢ヲ保シ難シ又煨合

スルニハ二片中ニ含有スル炭素ノ量相同シキ事必要ナリ否ラザルトキハ仕事ニ困難ヲ來スコト明ナリ特ニ過熱ニ逢フトキハ其害著シキヲ以テ綴釘ノ如キハ多ク鍛鐵ヲ用フ又鈍擊壓穿等ノ作用ヲ受クルトキハ其性質ヲ損ズルコト鍛鐵ヨリ大ナリト雖ドモ之ニ燒鈍法ヲ加フルトキハ幾分ヲ匡濟シ得ベシ

鋼鐵ノ成分ハシエレー氏ノ說ニ從ヘバ炭素ノ量千分ノ三十ヲ以テ極度トスルガ如シ優良ナルモノハ唯僅ニ千分中ニ就キ其少キハ六分ヨリ其多キモノモ二十分ニ出デズトセリアンウヰン氏ノ說ハ最柔鋼ハ百分中一、四乃至一、六ノ炭素ヲ含有セリト云ヘリ

炭素ノ多量ヲ含ムハ硬性少量ハ軟性トスレドモ多量モ度ヲ過グレバ脆弱ニ變シ漸ク鑄鐵ノ本性ニ近キ少量モ度ヲ過ユレハ粘柔ニ變ジ漸ク鍛鐵ノ本性ニ近クナリ

鋼鐵ハ煨キテ通紅ニシ之ヲ急ニ放冷スレバ硬度ヲ増シヤキイレ法ヤキイレ 徐々ニ其熱ヲ減

ズレバ硬度ヲ低下ス注是レ鍛鐵ト異ナル處ナリ
 ストダード氏ハ華氏温度四十度ナル通常ノ水ヲ最良ナル硬固劑トセリ
 鍛鍊スレバ結晶粒ノ大サヲ縮小セシメ氣孔ヲ閉合シ密度ヲ増加スルニ因リ
 滿遍ニ熱シテ滿遍ニ鍛フコト工人ノ一大要訣ナリ
 水割トハ熱鋼ヲ冷硬スル際屢々生ズル所ノ割裂ヲ云フ凝聚力ノ薄弱ナル境
 界ヲ生ジタルニ起因ス
 燒曲トテ煨キタル鋼ヲ水槽ニ投ジテ急ニ冷却スレバ脱熱ノ緩急ニ先後アル
 ニヨリ拉張ヒキムノ作用ヲ起シテ曲ルコトヲ云フ
 有泡鋼 鋼鐸中ニ含蓄スル微少ナル氣泡ノ膨脹ヨリ生ゼルガ如キ一種ノ泡
 ヲ以テ覆フアリ故ニ有泡鋼ト稱ス其破壞面ハ粗キ結晶狀ヲ呈シ光澤鮮クシ
 テ薄キ藍色ヲ帯ベリ熱度ハ通常ノ鋼鐵ヨリ少シク高ケレドモ纜ニ白熱ニ堪
 ヲベク煨合熱ニ進ムコト能ハザレバ此鋼ハ機關ノ一部ニ使用シ又ハ鉄用鋼
 ヲ製スル原料トナス

鉄用鋼ハ右ヲ變成シタルモノニシテ其質緻密強固ナリ且ツ彈力多ケレバ撥
 條ヲ製スルニ足リ鐵ト煨合シテ刀物ヲ作ルニ適セリ
 シーメンズ鑄鋼ハ爐中ニ於テ熔解シタル銑鐵ニ良質ノ鐵鑛及石灰石ヲ加ヘ
 其熱度ヲ以前ト同様ニ保テテ全ク熔合スルニ因リテ製ス
 ベスマー鋼鐵ハ灰白色ヲ呈シ遊離炭素ノ多量ヲ含ミ硅素滿俺等少許ヲ含有
 スト雖ドモ全ク燐素ヲ有セザル銑鐵ヨリ製造ス即チ銑鐵ノ熔解スルニ乗ジ
 非常ノ壓力ヲ有スル空氣ヲ吹き入テ鐵中ノ炭素ト化合セシメテ之ヲ除去ス
 此時一種ノ白色鑄鋼ヲ混入シ再ビ前法ノ如ク空氣ヲ壓入ス其二金屬能ク融
 合スルヲ待テ之ヲ型ニ鑄込ムモノトス此種ノ鋼鐵ハ鐵道用ノ軌道普通ノ及
 物類屋脊材橋梁等廣ク稱用セララル

○銅

銅ノ特長ハ鈍展性ヲ富有シ兼テ熔鑄スル合金ノ原料トナスニ在リ常温度ニ

於テ之レヲ鋸展シ至薄ナル半球狀ノ器皿ヲ作り輾壓シテ板金トナシ打開シ箔ト爲シ抽延シテ細線ト爲シ自由ナラザルハナシ銅ヲ採用スル注意要件

一銅ニ其量百分ノ二ヨリ四マテノ磷素ヲ加フレバ熔解シテ流動ノ度ヲ大ニシ鑄工ニ適當ナリ

二熱スレバ必鱗狀ノ黒皮ヲ出ス熱シテ水中ニ投ジ以テ稍々之ヲ除去スルヲ得ベシト雖モアンモニア溶液中ニ浸入スルニ非ザレバ全ク本色ヲ現出スルコト能ハズ

三又銅ハ熱ノ良導體ナレバ火室其他熱ヲ傳達スル處ニ用フ

四銅ハ他ノ金屬ト相吸着スル性強キニヨリ鍍シ難キ金屬ニハ必ズ先ヅ銅ヲ鍍シ而ル後ニ其上面ニ鍍スルヲ常トス

五銅ハ冷却シタルマヽニテ曲ゲザルヲ得ザル管ニ多ク用ヒラル

六銅ハ熔解點高ケレバ眞鍮鐵着ヲナスニ便利ナリ

○鉛

鉛ハ青灰色ノ光澤アル金屬ナリシガ濕リタル空氣中ニ於テハ其面忽チ酸化シテ光輝ヲ失フ其質極メテ柔軟ニシテ爪尙ホ搔傷スルヲ鋸展シテ箱トナシ抽延シテ線ト爲スト能ハズ之ニ反シテ比重大ナリ且ツ廉價ナルニ因リ銃丸垂準ニ適用セラレ又溶點極メテ低キニ依リ白鐵トナリ又導水管ニ製造セラ

ル
化學的抵抗力ノ強キ一大特性アルヲ以テ硫酸ニ侵蝕セラルトナシ工業場裏多量ニ消費セラル

○錫

錫ハ熔點鉛ヨリ低ク僅々攝氏ノ二百二十八度ヲ以テ溶流スベシ而シテ堅牢

性ハ却リテ鉛ニ優レルニ因リ極メテ低キ熱ヲ要スル金屬ノ鑲着ニ適恰セルモノトス又他ノ金屬ト密着シ易キ性アルヲ以テ彼錫鐵板ヲ作ルニ用フ所謂鐵葉ト稱スルモノナリ最初木炭ニテ能ク鐵板ヲ磨キ次ニ瞬間酸類ニ浸シ然ル後之ヲ溶解シタル錫液中ニ入ル、アリ

一般ノ錫器ハ純粹ノモノニアラズ多ク鉛ヲ混ズルモノナリ

鈍展性弱ケレモ金具ヲ作り箔トシテ銀ニ代用セシムベシ又銅ト相待チテ鐘材トナル

○亞鉛

亞鉛ハ溶解シ易ク且ツ貴金屬ト和合シ易キコト鉛ニ勝レルヲ以テ多ク鑄物ノ鑄造ニ用ユ例ヘバ銅又ハ錫ト相和シテ砲金、靱打、像銅、黃銅トナルガ如シ

空氣中ニ於テハ忽チ銹ヒ青白色ナル光輝ヲ失ヘドモ唯其外面ニ留ルノミ其

外面ヲ被覆スル鹽基性炭酸亞鉛ニ由リテ内部ヘ酸素ノ竄透スルヲ防遮スレバナリ故ニ鐵板鐵線ヲ被ヒテ「ガルバナイズト」鐵ト稱スルモノヲ得以テ屋根ヲ葺キ水管ヲ作り電信線ヲ張ル

○黃金

黃金ハ美麗ナル黄色ト光輝トヲ保持シテ永ク變セズ其鈍展應抽兩性ノ最大ナルコト萬物中之レニ及ブモノナカラン抽引シテ細線トナセバ一瓦ノ量ハ三千二百四十米ノ長サニ至ルベク又鈍展シテ薄箔トナセバ二十八萬枚ヲ積ムトモ僅ニ一時ノ厚サニ過ギザルベシト云フ又化學的抵抗力强ク王水ノ外之ヲ溶解スル酸液ナシ比重ハ頗ル大ナレハ黃金ノ眞僞ハ酸類ヲ用ヒテ試験スベシ清水ニ依リテ量定スベキナリ其質柔軟ナレバ必銅ヲ加ヘ裝飾物ノ材料トナル米國ニテハ必銅ヲ加ヘテ製シ常ニカラットナル語ヲ以テ組織ヲ表ハ

セリ純金ヲ二十四カラットト定メ以下二十カラット金二十分 十八カラット金十八分 銅四分銅六分 呼フガ如シ

○銀及白金

銀ハ白色ニシテ光澤アリ美麗ナルコト黄金ニ亞キ銅ヲ加ヘテ粧飾物トナス其質較々堅ケレドモ重量ハ輕ク一瓦ヲ以テ長サ二千六百米ノ線ヲ作り厚サ二十萬分ノ一時ノ箔ヲ爲ルニ足レリト云フ
白金ハ黄金ヨリ重ク強キ光澤アル銀白色ノ金屬ニシテ又黄金ヨリ堅硬ナリ宛モ黄金及陶器ノ兩質ヲ兼備スルガ如ク化學的抵抗力極メテ大ニシテ温ナル王水ノ外溶解スルモノナク水酸素吹管ノ火焰ノ外溶解スルコトナシ而シテ苛性アルカリノ外如何ナル物体來ルト雖ドモ其動作ヲ受ケズ

○合金

黄金銀 黄金ト銀トハ容易ニ溶解スト雖ドモ眞ニ合金ノ功ヲナザス然レドモ七分ノ黄金ト三分ノ銀トヲ混融シテ得ル所ノ合金ハ最も堅硬ナル故ニ歐洲ニテハ寶玉工ニ稱用セラル
黄金水銀 水銀尤モ黄金ニ感應シ易キモノナレバ直ニアマルガムヲ造成スベシ古來鍍金術ニ之ヲ使用スルナリ
銀水銀 水銀ノ銀ニ於ケル感應ハ黄金ニ於テスルヨリモ較々微弱ナレドモ是亦アマルガムヲ造成シ得ベシ用ハ鍍銀術ニ在リ
黄金銅ノ變性 黄金ニ少量ノ銅ヲ加フレバ其貴重ナル本性ヲ損害スルコトナク却リテ其堅硬ヲ増シ兼テ銻響ヲ加フ
赤銅 銅ニ少量ノ黄金ヲ加フレバ一種ノ色澤ヲ發セシム是レ赤銅ナリ其成分百分中凡ソ銅九十分黄金一分乃至十分ヲ含ムモノトス

赤銅ノ著色法 能ク磨キ上ゲタル器ニ小杓ヲ以テ低温度ノ酢ヲ注グバ黒色トナル之レヲ水ニテ洗ヒ火ニテ一様ニ炙リ次ニ鐵漿ニ浸シタル木綿片ヲ以テ能ク拭磨シ又前ノ如ク酢ヲ注キ水ヲ以テ洗ヒ乾カストキハ光澤アル紫色ヲ發ス

銀銅ノ變性 銀ニ少量ノ銅ヲ加フレバ其貴重ナル本性ヲ失ハズシテ反リテ良好ニ變更スルコト黄金ニ同シ

四分一銀 ハ本邦古來紫銅ト同シク粧飾品材トナリタルモノニシテ鼠色ノ幽邃ナル光輝アルモノナリ素ト銅四分銀一分ノ分量ナルヲ以テ名ク銅十分トハシロメ三分トヲ熔和シ此ノモノ四分ト銀六分トヨリ成ルモノヲ外四分一ト云ヒ之ニ反シテ銀四分ト前ノ合金六分トヨリ成リタルモノヲ内四分一ト云フ是亦磨拭スレバ銅ノ赤味ヲ呼び起セドモ若シ貯藏シタランニハ漸々鼠色ヲ挽回スベシ優等ナルモノハ白勝ナレドモ否ラザルモノハ黒勝ナリ

銅ト亞鉛ノ和合物 ヲ黃銅又ハ眞鍮ト云フ其成分ハ精良黃ナルモノハ凡ソ銅二分ト亞鉛一分ノ組成ナルガ如シ或ハ銅四分ノ三ト亞鉛四分ノ一ナリト云フ此合金ハ最モ能ク熔和シ熔點下リ鋸展性ヲ増シ外貌ヲ美廉ニシ堅硬ヲ加ヘ且ツ熔液稀釋ニシテ冷後凝固スルモ體中泡沫ヲ生ズルコトナシ而シテ價銅ヨリ廉ナリ

銅六十三五分ト亞鉛三十三三分トノ割合ニ混合スレバ此合金中最モ強ク旋盤細工ニ適ス

色合及ヒ硬軟 銅ノ分量多キ程其合金ハ桃色ヲ呈シ稍々銅ニ近キ性質ヲ有スト雖ドモ之レニ反シテ亞鉛ノ分量ヲ割合ニ多ク入ル、トキハ黃白色ヲ呈シ熔解シ易ク爲メニ鑄造ニ適スト雖ドモ脆性トナル凡テ眞鍮ハ一旦熱シテ除々ニ冷却スレバ堅クナリ急ニ冷セバ柔軟トナリ展延自在ナリ是鐵類ト異ナル所ナリ

含磷黃銅 黃銅ヲ熔解シ之ヲ模型ニ澆注スルニ先チテ乾燐ノ少量ヲ坩堝中

ニ加ヘテ攪和スレハ大ニ流動ノ性ヲ増ス是ニヨリテ黄銅流通自在ヲナシ緻密織細ノ鑄造品モ尙ホ能ク容易ニ成シ得ベシ

含鉛黄銅 鉛少許至五分乃ヲ加フレバ一層展伸ノ性ヲ増サシメ且ツ之ヲ旋盤ニ轉削スルニ最良ナリ量多ケレハ脆弱トナル

含錫黄銅 強固性ヲ増シ黄金色ヲ呈シ分子緻密トナリ熔解シ易キヲ以テ鑄造用ニ適ス鍍金用地ノ肖像及ビ置物等ヲ製スルニ用ヒラル

含鐵黄銅 又時トシテ少量ノ鐵ヲ加フルコトアリ而シテ得タル合金ハ熔ケ易ク鍛鍊シ得ル

黄銅ハ此ノ如ク凝力大ナルニモ拘ラズ熱シテ高度ニ至レバ俄ニ脆弱ニ變シ錘打スルコト能ハズ何トナレバ脆弱ナル亞鉛加ハリ在レバナリ故ニ錘展ヲ爲スニハ必燒鈍冷却ノ後ニ於テセザルベカラズ而シテ其燒鈍ヲ施スニ鞣ヲ用フベカラズ熔點低キニヨリテ誤ルコト多ケレバナリ

黄銅工作ノ注意 總テ錘展ノ工ヲ了ヘタル後ハ錘磨刮平スルヲ常トスカ

ル場合ハ大ナルモノハ鈍痕淺キヲ要シ小ナルモノハ刮刀ノ仕上ゲニテ事足ルガ如ク初メヨリ用意セザルベカラズ而シテ細キ鍍薄キ板ニ在リテハ成ルベク鍍痕ヲ附セズ黄燒ヲ施スヲ法トス

黄燒法トハ眞鍮製器具ヲ硫酸ト硝酸ノ混液ニ浸ストキハ美麗ナル黄金色ニ變更スルヲ云フ又單ニ硝酸ノミヲ用フルコトアリ共ニ豫メ清淨ノ水ヲ備ヘ置キ先ヅ器具ヲ酸液ニ入レ手早ク取り上ゲテ水中ニ投ジ攪盪シテ其酸化物ヲ洗ヒ落スナリ然ル後ニ乾カスベシ手ヲ觸ルベカラズ

金色ヲニスノ下地黄色ヲニスヲ施サント欲セバ豫メ其素地ヲ琢磨シ眞鍮ヲシテ充分ノ光澤ヲ發セシメ能ク其面ヲ拭ヒ去リテ一點ノ汚物ヲ留メズ而ル後ニ假漆ヲ塗布シ温ヲ與フベシ素地ハ主ニシテ假漆ハ從ナルコトヲ忘ルベカラズ

吟黄銅シミロール及ブラチネ 銅板用洋箔ハ銅十一分亞鉛二分ヨリ組成シタル黄色眞鍮ニシテ之ヲ吟黄銅ト稱シ又赤金屬ト云フ又六乃至九分ノ銅ト一

分ノ亞鉛ヨリ組成シタル黄金類似ノ色ヲ有セル眞鍮ヲシミロールト云ヒ是亦洋箔ヲ製スルニ用フ銅二分ト亞鉛八分ヨリ組成シタル白色ノ眞鍮ヲブラチネト云フ

マンツメタルハ眞鍮ノ一種ニシテ熱間軋機ニ依リテ容易ニ展延シ得ベキモノニシテ大抵銅六十分ト亞鉛四十分ヨリナルト雖ドモ時ニ依リ銅六十六分ト亞鉛三十三分及ビ少量ノ鉛ヲ含有スルコトアリ船舶ノ被覆料或ハ船用汽罐トテ海水ノ接スル管ニ使用ス其色澤ノ美ナルト鹹水中ニ在リテ久シキニ耐エルヲ以テ稱用セララル故ニ種々ノ裝飾品其他ノ技術工藝ニ供用スルコト少カラズ

活嘴用ハ銅八十八分亞鉛三十三分鉛一分鑄像用青銅ハ銅九十分亞鉛五分錫二分ノ割合ナリ

銅ト錫ノ和合物 ヲ青銅ト謂フ亞鉛ヨリモ容易ニ銅ト和スルノミナラズ堅硬緻密脆弱發響等ノ諸性ヲ増加ス故ニ和合物ハ鍛鍊勾曲スベカラズ然レモ

水中ニ投ジテ急冷スルトキハ彼鋼鐵ト反對ノ結果ヲ現バシ其鏈展性ヲ増加シ鑄磨鑿削ノ工ヲ施シ得ル便利アリ徐々ニ冷却スレバ再ビ硬脆ニ復シ鏈打スルニ隨ヒ破碎スベシ

青銅百分中錫ヲ含ム一乃至二分ナルキハ低溫度ニ於テ鏈展スベク五分ニ達スレバ熾熱ヲ須チテ能フベシ銅五分ノ場合錫一分ナルトキハ堅硬ノ極點以テ機械類ヲ製造スルニ適ム尙錫量四分一乃至三分一ナルトキハ脆性大ニシテ硝子ノ如ク彈力ヲ具ヘ高朗ナル音聲ヲ發スベシ若シ二分ノ銅ニ一分ノ錫ナルトキハ其硬キコト銅及ト雖ドモ之ヲ截ルコト能ハザル質ニ變ズ甚シク結晶狀ノ組織ヲ表ハスベシ

赤銅ノ暗色ハ鉛分ノ多量ナルニ隨ヒテ濃稠トナルヲ以テ色澤ノ本源ハ全ク鉛ナリ然レモ二割ノ鉛ヲ含有セシムベカラズ脆クナルベシ一割ナルトキハ旋盤又ハ盤ヲ以テ工ヲ施スコトヲ得ベシ

砲金ハ銅ニ比スレバ其質強固ナリト雖ドモ鍛鍊性ニ至リテハ銅ニ及バザル

丁數等ナリ然レドモ此合金ハ溶解後流動性アルヲ以テ鑄造用ニ適ス柔軟ナル砲金ハ銀八分ト銅九十二分ヨリ成リ硬質ノモノハ錫十八分ト銅八十二分ヨリナル

青銅ノ鑄造ニ磷ヲ加フ之ヲ合磷青銅ト云フ磷ハ以テ銅ヲシテ彈力性、韌撓性、堅硬性、熔流性、混和性、鍛鍊性等ヲ富マシメ且其色澤ヲ發輝セシム此合金ノ性質ハ分量ニ依テ硬柔、強弱ニ變化シ得ベキモノニシテ其割合ハ大抵銅九十分、錫二分、磷至〇、七五分ナリ

青銅ヲ造ルニ注意スベキハ豫期ノ分量ヲ誤ラザランコトヲ務ムルニ在リ坩堝ニ裝入スベキ金屬ノ順序ハ難熔物ヲ先ニシ漸次其熔點ヲ按シテ易熔物ヲ投ジ其熔融スルニ乗ジ能ク攪和シテ化合セシメ又鑄造シテ放冷スルヤ神速ナランコトヲ要ス

普通青銅ハ錫ノ分量大抵百分中八分アルモノヲ柔性トシ十八分アルヲ剛性トセリ之ニ少量ノ亞鉛若クハ鉛ヲ加ヘテ増減斟酌シ肖像、燈籠、花瓶、火鉢等ヲ

製ス近來肖像用金ハ恰モ青銅ト眞鍮ノ中間ニ位スルモノト如シ即六十六分乃至八十四分ノ銅ト十一乃至三十二分ノ亞鉛及二乃至四分ノ錫ヨリ成リ偶々少量ノ鉛ヲ含有セリ此和合物ハ熔流シ易ク其質堅硬ナリ而シテ鑄或ハ鑿ヲ以テ操作スルヲ得ベシ

人工酸化青銅ハ礬砂五分、硝酸^カ加^ル倍母一分ヲ九十四、五分醋酸ニ混ジタル液或ハ硝酸銅礬砂ノ水溶液ヲ以テ青銅ノ器具ヲ摩擦シテ此内ニ浸入セシムレハ綠色ノ被覆ヲ生ジテ古雅トナルベシ

鏡銅ハ其分量通常銅二分ト錫一分ナリ錫多量ナレバ硬脆ナルコト硝子ノ如クナレドモ緻密ナル質ハ之ヲ磨研スルニ隨ヒ現ハレ來ルベシ

銅ト臙結兒又ハ礬素ノ和合物

此和合金屬ノ質ハ頗ル堅硬ニシテ燒鈍法ヲ施セバ鈍展スベク其色澤銀ニ比スレバ較々灰色ヲ帶ビ暗シト雖ドモ磨シテ光ヲ發ツベシ又大氣中ニ曝露スルトキハ黃色ノ曇翳ヲ生ジ醋及ヒ日常厨用ノ酸類ニ感ズル較々遲緩ナリト

雖ドモ久ク之ニ浸漸スルトキハ遂ニ綠色ノ薄被ヲ生スベシ要スルニ此和合物ハ銀ニ亞クベキ品格ヲ存セリ之ヲ日耳曼銀ト云フ即チ新銀、洋白、白銅ノ異名ヲ有セルモノナリ

我邦ノ白銅貨ハ櫃結兒二百五十分銅七百五十分ノ熔化金ナリ鍍銀器ヲ製セント欲セバ銅五分亞鉛三分及櫃結兒二分ヲ熔合セシムルモノトス食匙類ハ櫃結兒及亞鉛各一分ト銅二分トス韌延性ハ更ニ百分ノ二ノ鉛ヲ加フルトキハ増加スベシ

鑄物用材ニハ銅五十分亞鉛二十分及ヒ櫃結兒二十五分ノ割合トス若シ之レニ少量ノ鐵及銅鐵ヲ加ヘナバ白色ナラシムベシト雖ドモ其質ヲ脆弱ニスル傾キアリ

鑿銅ハ銅ト鑿素ノ和合物ニシテ俗ニ「アルミ」ト呼ブ黃金類似ノ合金ニシテ理學器械、指環等凡ソ黃金ニ代用スベキ粧飾物及ヒ器具ヲ製ス但タ其質較々堅ク比重輕キヲ以テ黃金ト辨知スベキノミ酸化抵抗力強クシテ空氣中容易ニ

變化セザレドモ歷時久ケレバ終ニ曇翳ヲ生ズルヲ免レズ通常鑿素一分銅九分ヨリ組成スルナリ電氣ニ怯セザル美質アリ

鉛、錫、安質母尼ノ和合物

鉛ヲ錫ニ加フレバ堅硬、強靱ナレドモ酸化シ易クシテ光澤ヲ失ヒ展延スルコト困難ナリ錫ノ代用トスルハ價廉ナル故ナリ

安質母尼ノ和合物ハ其單金ヨリ皆堅硬ニ變ジ或ハ白色ノ光澤ヲ増加スルアリ又時ニ銅、蒼鉛ヲ加フルコトアリ

燭臺等ハ錫六分安質母尼一分ヨリ組成シ間々少量ノ亞鉛、銅ヲ含ムコトアリ其外貌銀ニ類似シテ甚ダ堅硬ナリ之ヲブリタニア和合金屬ト云フ數金屬ノ和合物

白鐵ハ錫二分ト鉛一分ノ合金ニシテブリキ及薄キ眞鍮板ヲ鍍着スルニ用ユ銅器ノ内面ニ塗り綠青ノ生ズルヲ防ク一種速鐵ナルモノアリ錫二分、鉛及蒼鉛各々一分ヨリ成ル此鐵ハ鹽化亞鉛水ヲ以テ其接合部ヲ清潔ニシテ燒

鍍ノ方法ヲカリテ附着セシムルモノトス
茶器類ノ鍍製ハ鉛一分、錫三分ヨリ成ル

真鍮鐵ハ真鍮十分、銅一分半、亞鉛六分ノ熔化物ナリ色異ナレドモ又銅及錫ニ
モ用フルコトヲ得又真鍮、銅、亞鉛各々百分安質母尼四分ヨリナルモノアリ
銀鍍ハ銀十分ト真鍮二乃至三分ヲ熔化シテ用フ又銀十分、銅五分、安質母尼四
分ヨリ成ルモノアリ一種速鍍トテ銀十分、真鍮五分、亞鉛三分ヨリ組成スルモ
ノアリ

赤銅鍍ハ赤銅三分ト亞鉛十分トヲ熔和シテ用フ
四分一銀鍍ハ銀十分、真鍮五分、錫三分ヲ熔化シタルモノ
以上四種ノ鍍ハ各々熔製シタル後打チ碎キテ細砂狀トナシ之レニ燒礬砂ノ
粉末ヲ加ヘ水ニテ粘リ而シテ後、篋ヲ以テ鍍着セントスル部分ニ塗り附ケ吹
管又ハ嘴ヲ用ヒ烈火ヲ以テ熔着スルモノナリ
盤陀鍍

真鍮盤陀ハ銅ト亞鉛トノ等分混合小細工用ニハ銀一分、銅八分、亞鉛八分ノ割
銅用盤陀ハ銅三分、亞鉛一分ノ割又銅七分、亞鉛三分、錫二分ノ割、硬性ハ銅八十
六、五分、亞鉛九、五分、錫四分ノ割

黄金用盤陀ハ硬性十八カラットノ黄金十八分、銀十九分、純銅十分ノ割
銀用盤陀ハ硬性銀四分、銅一分ノ割、小細工用ニハ銀二分、真鍮針金一分ノ割、真
鍮計金ハ熔解シ易キガ爲ナリ

媒熔劑

- 錫ヲ引キタル鐵板ニハ 樹指(木ノヤニ)又ハ皓礬水
- 真鍮又ハ銅ニハ 礬砂、ゴロール、アンモニヤ又ハ皓礬水
- 亞鉛ニハ 皓礬水
- 鉛ニハ 牛脂

○箔 鈔 類

金箔ハ銀ヲ和シタル黄金ヲ鎚展シテ薄葉トナシタルモノ通常品ハ方三寸三分通稱スト方三寸小箔トノ二類ニシテ別製トテ方一尺一寸百枚ニ付十匁付方七寸全二匁付方五寸全一匁七分附方四寸一匁附全三寸七分二匁五分附トテ純金箔アリ混和ノ多少ニ依リ濃色方三寸七分二枚掛六分付一枚半掛五分五厘付方三寸三分二枚掛四分附一枚半掛三分七厘附アリ色吉トテ方三寸七分二枚掛五分五厘附一枚半掛五分附一枚掛四分附方三寸三分一枚半掛三分五厘附一枚並二分八厘付アリ仲色トテ方一尺八匁五分附方三寸七分一枚掛三分八厘附方三寸三分並三分附アリ青色トテ方三寸七分三分五厘附方三寸三分二分八厘附ノモノアリ

加賀箔ハ極薄ニシテ京都箔ノ如ク厚カラズ畢意純金ヲ使用セルニ依ルナリ箔ノ取扱ヲ便ニスル爲メ一枚毎ニ胡桃ノ仁ニテ摩擦シタル紙ヲ置ケリ之ヲ

用フル者ハ四邊ヲ把リテ屏風ナドへ膠ヲ布キタル上ニ置キ厨子ノ如キハ漆ヲ塗リタル上ニ置クヲ法トス

消金鈔シキツハ金箔ヲ粉末ニシタルモノナリ少量ノ金粉ヲ自製セント欲セバ箔ヲ乳鉢中ニ投ジ膠液ト共ニ摺リ混ゼ温湯ヲ加ヘテ膠液ヲ稀薄ニスレバ鈔ハ沈澱スベシ然シテ後水分ヲ蒸發セシメテ製ス

銀箔ハ少量ノ銅ヲ含ミタル銀ヲ鎚展シテ薄葉トナシタルモノニシテ通常方三寸七分アリ別製トテ方一尺百枚七匁五分付本四寸全九分付三寸七分全六分五厘附等アリ銀鈔ハ箔ヨリ製ス多量ヲ要スル時ハ銀塊ヨリ鍍屑ヲ作り銀鈔器ニテ粉末トナスナリ陶器用料ハ硝酸銀液中ニ銅板ヲ投入シ之ニ附着シタル銀鈔ヲ洗落シテ乾燥セシメ使用ス此物ハ純銀ニシテ特ニ微細ナレバ光澤多シ西洋箔ハ吟黃銅シミロール類ヲ鎚展シタルモノナリシガ光輝鈍ク箔葉薄シ化學的抵抗力弱ケレハ一時ノ用ノ外用ニ堪ヘズ之ヲ粉末シタルモノ版畫ノ摺物及ビ諸般ノ彩色ニ用フ

金貝トハ鉛ヲ溶化シタル錫ヲ鎚展シ約長六寸幅五寸大ノ薄葉ニ製シタルモノヲ云フ其厚サハ千枚ノ目方ヲ以テ表ハス六百目、八百目、一貫目、一貫二百目一貫五百目附等ノ數種アリ大刀卷トテ幅五寸長二尺ノモノアリ匾額縁用トシテ幅二寸五分長サ六尺ノモノアリ之ヲ厚金貝ト稱シ重ニ被璃鏡ヲ製シ被包スルニ用ヒラル薄金貝ハ幅六寸長サ一尺乃至一尺八分ノモノニシテ壁紙金革、銀丈長ヲ製スル用ニ供ス又是レヨリ白檀紙及ビ錫紙ヲ製ス

鐵鉛ハ鐵ノ鑄鉛ヲ取り水ヲ以テ洗淨陶汰シ乾燥セシメタル黑褐色ノ粉末トナシワニス或ハ膠液ニ混ゼテ鐵錆色ヲ附スル用料トス又漆ニ混ゼテ鐵器ノ滲漏ヲ防止スルヲ得

(二月清方氏著「工務用材料」ヨリ抜萃ス)

○參考資料

○合金ニ就テ

建築雜誌第百十六號百九十八頁

○鐵類防蝕ノ方法ニ就テ
 ○鐵材検査ノ方法ニ就テ

全 全
 第百四十六號四十三頁
 第百五十三號二百二十一頁

第十編 塗師職之部

(二百四十九ノ附)

○摺漆之仕様書

右仕様木地研之上砥之粉ニテ篋^へ鏝致シ研切洗朱ト朱染草ト南京石⁺黄^ワト調合ヲ以テ色附致シ雞卵之白味ヲ敷梨子地漆ヲ樟腦ニテ和ラゲ四返摺漆致シ角粉ニテ磨上之事

尺方一坪ニ付

塗師手間七分

○紙着セ蠟色塗仕様書

右仕様紙着セ仕立蠟色塗木堅メ刻苧飼上ニ美濃紙着セ堅地一返薄地一返共付全研堅メ切粉一返付全研堅メ化粧鏝一返付同研堅メ中塗全研小村直シ致シ上塗蠟色漆ヲ以テ塗立全研摺漆三回共一回毎ニ角粉ニテ磨上ケ出來ノ事

○堅地蠟色仕様書

右仕様木固メ下地二度切粉二度切粉研切粉堅錆塗錆研墨塗中塗全研上磨全研摺漆三遍角粉磨キ出来ノ事

○布着上等下地付本朱塗仕様書

右仕様ハ土堅メ刻苧彫刻苧飼込引込布着セノ上布目摺薄地一返堅地二返地研地堅メ切粉貳返付切粉研全堅メ錆付全研塗下中塗全研材直シ小中塗研上朱漆ヲ以テ上塗ニテ摺漆出来ノ事

○布着蠟色塗仕様書

右仕様ハ前全斷唯蠟色漆ヲ以テ上塗出来ノ事

○仕上蠟色布着仕様書

一仕上蠟色布着

二十四度塗何積(一尺方ナ一積ト云フ)

右仕様

木地堅

瀬ノ漆ヲ以テ充分木肌ニ吸ハセ木綿ニテ拭上ゲ

刻苧飼

瀬ノ漆ニ麥粉ヲ混和シ刻苧綿及地ノ粉ニ交セ飼込ミ仕上ゲ

布着

瀬ノ漆ニ麥粉ヲ混和シ五郎丸晒布ヲ以テ浮キナキ様着セ上

ゲ

布目摺

瀬ノ漆ニ地粉ヲ混和シ水ニテ和ラゲ伸ベ布目摺リ仕上ケ

一返地

地ノ粉ヲ水ニテ堅ク練リ瀬ノ漆ヲ以テ調合一返地付

二返地

全上

全研キ

荒砥ヲ以テ水研キ出来

- 全堅メ 瀬ノ漆ヲ以テ堅メ仕上ゲ
- 一返切粉 地ノ粉砥ノ粉ヲ當分ニ混和シ瀬ノ漆ヲ調合シ一返切粉付ケ上ゲ
- 二返切粉 全上
- 全研 白砥ヲ以テ水研キ仕上ゲ
- 全堅メ 瀬ノ漆ヲ以テ堅メ仕上ゲ
- 化粧錆 砥ノ粉ヲ水ニテ堅ク練リ瀬ノ漆ヲ以テ調合錆付ケ仕上ケ青
- 全研キ 砥ヲ以テ水研キ仕上ゲ
- 中塗 中塗漆ニ松煙墨ヲ混合シ中塗仕上ゲ
- 全研キ 朴ノ木炭ヲ以テ水研キ仕上ゲ
- 上塗 蠟色漆ヲ以テ上塗仕上ゲ
- 全研 蠟色炭ヲ以テ水研キ仕上ゲ
- 一返摺漆 瀬ノ漆ヲ以テ一返摺リ仕上ゲ

- 全磨キ 油及角粉ヲ以テ一返磨キ上ゲ
- 二返摺漆 瀬ノ漆ヲ以テ二返摺仕上ゲ
- 全磨キ 磨キ前全斷
- 三返摺漆 前全斷
- 全磨キ 油及角粉ヲ以テ磨キ上ゲ
- 右一積ニ付金七十二錢六厘位

○紙着仕立蠟色仕様書

二十二度塗積

一紙着仕立蠟色

右仕様

木地堅刻芋飼 前全
 紙着 瀬ノ漆ヲ麥粉ニ混和シ上美濃紙ニテ浮キ無之様着セ上ゲ以

下ハ布目摺ニ返切粉ノ二度ヲ省キ他ハ布着ト全
右一積ニ付金六十錢位
三返ニテ尙十分艶出ザル時ハ四返摺漆致シ四返磨キ仕上ゲ

○仕立蠟色塗仕様書

一仕立蠟色塗

十八度塗何積

右仕様

木地堅	刻芋侖	布着全斷
一返地	一返切粉	全
全研	全堅	全
化粧錆	全研	全
中塗		中塗漆ヲ以テ中塗仕上ゲ

全研キ以下

布着ト全斷

右一積ニ付金五十錢位

○塗立蠟色塗仕様書

一塗立蠟色塗

十一度塗何積

右仕様

木地型	刻芋侖	一返地	一返切粉(布着全斷)
化粧錆	砥ノ粉ヲ水ニテ堅ク練リ瀨ノ漆ヲ調合シ錆付		
全研	青砥ヲ以テ水研仕上ゲ		
中塗	中塗漆ヲ以テ中塗仕上ゲ		
全研	朴ノ木炭ヲ以テ水研仕上ゲ		
村直シ	砥ノ粉ニ瀨ノ漆ヲ調合シ錆繕ヒ仕上ゲ		

摺漆 瀨ノ漆ニ水ヲ混和シ摺漆仕上ゲ
上塗 塗立蠟色漆ヲ以テ塗上仕上ゲ
右一積ニ付金三十錢位

○摺漆仕様書

十二度塗何積

一摺漆

右仕様

目留メ 砥ノ粉ヲ水ニテ練リ姫糊ヲ混和シ目留メ仕上ゲ
木地磨 白砥ヲ以テ充分ニ水研仕上ゲ
一返留引 晒シ皮ヲ水ニテ浸シ火ニテ溶シ一返留引仕上ゲ
二返留引 全
三返留引 全

一返摺漆 生正味漆ヲ以テ一返摺仕上ゲ
二返摺漆 全
三返摺漆 全
同 磨 油及角粉ヲ以テ磨キ上ゲ
四返摺漆 梨子地漆ニ樟腦ヲ混和シ四返摺仕上ゲ
同 磨 磨キ前全
五返摺漆 梨子地漆ヲ以テ摺上ゲ出來
右一積ニ付金十八錢位

○上花塗仕様書

九度塗何積

一上花塗

右仕様

木堅メ 瀬ノ漆ヲ以テ充分ニ木肌ニ吸ハセ木綿ニテ拭キ上ゲ
 刻苧飼 瀬ノ漆ニ麥粉ヲ混和シ刻苧綿及地粉交ゼ飼込ミ
 一返地 地ノ粉ヲ水ニテ堅ク練リ瀬ノ漆ヲ調合シ一返地付仕上ゲ
 化粧錆 砥ノ粉ヲ水ニテ堅ク練リ瀬ノ漆ヲ以テ調合シ錆附
 全研 青砥ヲ以テ水研仕上ゲ
 中塗 中塗漆ニ松煙墨ヲ混和シ中研仕上ゲ
 全研 朴ノ木炭ヲ以テ水研仕上ゲ
 摺漆 瀬ノ漆ニ水ヲ和シ摺漆仕上ゲ
 上塗 上花塗漆ヲ以テ上塗仕上ゲ
 右一積ニ付金貳拾錢位

○搔合塗仕様書

一 搔合塗

右仕様
 木型メ 刻苧飼 前全
 錆繕ヒ 砥ノ粉ヲ水ニテ練潰シ瀬ノ漆ヲ調合シ錆繕ヒ仕上ゲ
 全研 白砥ヲ以テ水研仕上ゲ
 墨引 柿澁ニ松煙墨ヲ混和シ濃クシテ墨引上ケ
 一返留引 全柿澁ヲ以テ一返留引仕上ゲ
 二返留引 全
 三返留引 全
 上塗 上花塗漆ヲ以テ上塗ノ事
 右一積ニ付金八錢八厘位

○辨柄朱塗

胡粉。地堅メ瀬ノ漆摺漆。地錆。「カラ」磨キ。切子錆。切子研。
切子中錆。全水研。摺漆。錆繕。全繕研。辨柄朱上塗。
右一積ニ付金二十三錢五厘位

○青漆塗

青漆上塗 其他前全
右一積ニ付金二十五錢四厘位

○朱搔合塗

摺塗。研掛落シ。摺漆。辨柄中塗。炭研。摺漆。本朱ニテ上塗。

右一積ニ付金十六錢四厘位

○上眞塗

痕損ノ所胡粉共。地錆。「カラ」磨。切子錆。全地粉研。中錆。全中錆研。
摺漆二返。錆繕ヒ。繕ヒ研。摺漆上木賊共。上塗「ウルミ」朱ニテ出來
右一積ニ付金二十四錢位

○眞搔合塗

錆一返。摺漆。墨漆。上塗。
右一積ニ付金六錢貳厘位
一積代價

草掻合塗 但澁墨塗摺漆仕上塗 金三錢七厘位
 掻合塗 金三錢八厘位
 濃溜塗 金四錢八厘位
 眞溜塗 但三度塗 金四錢五厘位
 春慶塗 金四錢四厘位
 胡粉塗 五返塗 金五錢二厘位
 張附下地釘頭漆塗 百本三付・金 三 錢位

○蒔 繪 (二寸四方一積三付)

極彩色 上金一圓十八錢三厘 中金八十五錢 並金六十三錢
 中彩色 上金五十二錢七厘 中金四十二錢 並金三十二錢
 薄彩色 上金二十九錢 中金十七錢 並金十一錢
 (以上列記シタル金額ハ單ニ其標準ヲ示シタルノミ)

○白胡粉三返塗仕様

右仕様最上胡粉ヲ白晒膠ト調合致シ刷毛地三返水研キ篋地二返全研キ木賊當テ其上棕ノ葉ヲ以テ能ク磨キ地色汚班無之様製造可致事

○漆

漆ハ越前大和相摸ニ多ク産ス奥羽地方ヨリ産スルモノヲ良種トス丹波九州地産ハ京坂地方ニテ多ク使用ス中國ニハ用ニ足ルモノ少シ漆ハ下地漆、黒漆、朱漆ノ三種ニ區別セララル

下地漆

綿漉瀨ノ漆、生正味等ノ種類アリ

黒漆

蠟色塗立、中塗、上花、上中、中花、黒中花、黒溜、黒並花等ノ種類アリ

朱漆

朱漆、梨地、上溜、透ノ中花、中溜、並溜

其年ノ五月頃ヨリ採集ニ掛ルモノニシテ夏採リテ透キ物トテ着色ケ物ニ適シ秋採リヲ黒ニ用フ初メ搔鎌ニテ漆ノ木へ傷ケ樹液ノ出タルトキ竹ノ小片ニ作ノ油ヲ附ケ搔キ取り桶ノ中ニ入ル、ナリ油ノ混和ノ多少ニ依テ價格ニ高下ヲ生ズルモノナリ産地ニヨリ乾キ方早キモノアリ爲メニ縮ミヲ生ジ其早乾ノ物ヨリ四倍程ノ時間ヲ要スルモノアリ是等ハ産地及品質ニヨリ調和シテ使用スル時ハ良質トナルベシ

○漆塗ノ種類

種 類	産 地	摘	要
南部塗	陸奥國南部	赤塗多シ	

會津塗	岩代國會津	南部ヲ摸擬シテ作りタルモノ後ニ變ズ	
根來塗	紀伊國那智郡根來寺	黒或ハ赤	
吉野根來塗	大和國吉野	器ノ縁ヲ春慶ニ類シタル色ヲ以テ塗ル	
黒江塗	紀伊國名草郡黒江村	蒔繪多シ	
春慶塗	和泉國大鳥郡界浦	黄赤ノ間色ニシテ伊勢、常陸、下野、盤城、陸中、陸奥及東京ニモアリ	
能代塗	羽後國能代	淡黄ニシテ木質透明能代春慶ノ名アリ	
若狹塗	若狹國小濱	赤、緑、青、黄、黒ノ彩漆ヲ用ユ其狀恰モ雲ノ如シ	
津輕塗	陸奥國弘前	若狹塗ト髮髭タリ異ナルハ金銀箔ヲ用ヒザルニアリ	
日光塗	下野國日光		
吉野塗	大和國吉野		
日野塗	近江國日野	稍下等品ナリ	
輪嶋塗	能登國輪島	朱或ハ黒	
象谷塗	讚岐國高松	全	

山中塗	加賀國山中
象眼塗	加賀國金塗
木地蠟塗	駿河國府中

金銀線ヲ以テ鳥獸花草ヲ器物ニ嵌入シ之レニ黒塗ヲ施コシ後磨キタルモノナリ
春慶ノ如キ色合ナリ

○漆製法

蠟色漆ハ生漆ノ儘ニテハ上塗ニ用ユル能ハズ鐵漿或ハ鐵物ノ砥キ汁ヲ入レテ製ス割合ハ生漆四十匁ニ鐵漿五匁位
梨地漆ハ石黃トアラビヤゴム質ノモノト「ムメムキ」梅汁トヲ混和シテ製ス其割合ハ石黃三十匁ニ生漆五十匁ニアラビヤゴム質ノモノ五匁或ハ十匁「ムキ」一匁(或ハ入レザルコトアリ)
朱漆ハ梨地漆ト略ボ同ジ在ノ油ヲ四割位加フ
塗立漆ハ蠟色漆ノ調合法ニ一割位ノ在ノ油ヲ加フ
中塗梨ハ塗立漆ト略ボ同ジ

上花漆ハ蠟色漆ノ調合法ニ二割位ノ在ノ油ヲ加フ
上中漆ハ蠟色漆ノ調合法ニ二割五分ヨリ四割位ノ在ノ油ヲ加フ
中花漆ハ以上ニ四割以上在ノ油ヲ混ジタルモノ

○色着ケ

漆ハ混合物ノ種類ニ依リ色ノ配合ヲ得ルモ主タルモノハ朱青黃及ビ栗色ナリ
朱色ニハ榮吉大興三與印ノ朱ヲ用ユ又辨柄光明ヲ朱ニ混ズルコトアリ
青色ニハ青漆(越後産)ヲ朱漆ニ混ズ
黄色漆ハ石黃ヲ朱漆ニ混ズ
栗色ニハ上花ニ辨柄ヲ混ジ用ユ
朱漆「ウルミ」栗色上花ニ朱ヲ混ジ用ユ

○漆塗乾燥室

乾燥室ハ四周ノ壁床共濕氣ヲ與ヘ室内ノ乾燥スルヲ防ギ塵芥ノ飛散セザル様ナスベシ尙多少ノ温度ヲ保タシムルヲ要ス或ハ便宜ナル箱ヲ作り之レヲ

混潤セメテ漆塗物ヲ覆ヒ又盥等ニ濕氣ヲ與ヘ覆ラヌルコトアリ梅雨ノ候ハ室内ノ濕氣ヲ與フルノ要ナキモ秋氣ノ大氣乾燥シタル時季ニハ四壁ヘ濡莖ヲ吊下スルコトアリ此際ハ塵芥ヲ防グニ注意スベシ

○塗方

木堅 瀨ノ漆ヲ水ニ混和シテ木地ノ上ニ塗ルコト一晝夜乾ハシタル上ニテ

刻苧飼 トテ接ギ目ヲ小刀ニテ堀リ刻苧ヲ詰メ二日程乾ハシタル後

刻苧揃 トテ其表面ヲ滑ニシ其上ヘ

引込 トテ地ヲ平ラニナシ一晝夜乾ハシ砥石ニ水ヲ附ケテ研ク此潤ヒ

布着 ノ乾ク迄一晝夜乾ハシテトテ布ヲ糊ニテ張り附ケ

布揃 トテ布ノ上ヲ小刀ヲ以テ面ノ粗澁ナルヲ去リ滑カニスルナリ次ニ

布目磨リ トテ布ノ目ノ上ヘ錆ヲ磨リ込ミ

砥石磨 トテ水ヲ附ケズシテ研キ然ル後

半田地 二返附ケ

切粉 一返施ス此レヲ一晝夜乾ハシ

研 砥石ニ水ヲ附ケテ研キ然シテ

地堅 瀨ノ漆ニテ地ヲ堅メ其上ニ

化粧錆 ヲ附ケ一晝夜乾カス然ル後

砥石 ニ水ヲ附ケテ研キ其上ニ

墨ヲ引キ 乾キタル後ニ

砥石 ニ水ヲ附ケズシテ研ク

以上ヲ下地ト云フ次ニ

中塗漆 ヲ塗リ二晝夜乾ハシ次ニ

中塗研 又村直トモ云ヒテ「ホツ」ノ木炭ニテ磨キ然シテ

蠟色研 トテ蠟色炭ト稱スル「アゼ」ノ木ヲ燒キテ作りタル炭ニテ(駿河産)研

キ次ニ

磨リ研 トテ蠟色炭ヲ粉ニシ炭子ヲ當テ磨リ研キ其上ニ

磨リ漆 (摺漆)ヲ一返綿ニテ磨リ一晝夜乾ハシ乾キタル上

一返研 ヲナシ次ニ

二返磨リ漆 ヲナシ一晝夜乾カシ

一返研 ヲナス然シテ後又

磨リ漆 ヲナシ一晝夜乾カシタル後ニ之ヲ燒角粉ト種油トヲ混ジタルモ
ノヲ綿ニ附ケテ手掌ニテ研キ落シ其上ヲ

三返目磨リ漆 ヲナスコト前同法ヲ繰返スナリ上等物ハ

五返迄 磨リテハ落シ落シテハ磨ルナリ

以上

一刻苧ハ苧ノ古キモノヲ劬ノ如ク切リタル恰モ袂糞ノ如キモノニシテ

此ニ糊ヲ混ズ其調合ハ

糊五匁ニ刻苧五匁ヲ加ヘ而シテ瀨ノ漆五匁ニ温餽粉一匁ヲ混ズ

一引キ込トハ半田地ヲ引キ込ムヲ云フ

一半田地トハ糊十匁水三十匁瀨ノ漆二十匁地ノ粉六十匁ヲ調合シタル

モノナリ

一地ノ粉トハ炮烙ヲ燒テ粉ニシタルモノナリ

一布トハ麻布ニシテ瀨ノ漆十匁ニ糊十匁及水五匁ノ調合ヲ以テ之ヲ張

ルナリ

一本地トハ地ノ粉ト瀨ノ漆トヲ等分ニ混和シタルモノニテ極上等品ニ

アラザレバ用ヒズ

一切粉トハ砥ノ粉十匁ニ水七匁ト地ノ粉三匁ノ調合ナリ

一堅メニハ水五匁ト瀨ノ漆十匁ヲ混ジタルモノヲ用ユ

一化粧錆トハ砥ノ粉十匁ニ漆五匁水五匁ノ調合ナリ

一墨トハ通例ノ墨汁ナリ綿ニテ之ヲ引ク

一 返研トハ砥ノ粉ト燒キ角粉トヲ混ジテ一返綿ニテ研クヲ云フ
一 消耗材料 左ニ布着黒艶消蠟色塗一積當リノ品目及員數ヲ參考トシ
テ記載ス

- 半紙反古 一枚半 吳呂丸晒 九寸幅一尺貳寸
- 吉野紙 二枚 杉原紙 半枚
- 木賊 一本 晒木綿 九寸幅三寸
- 古綿 三匁 角ノ粉 一匁五分
- 朴ノ木炭 五匁 蠟色炭 三匁五分
- 炭粉 一匁五分 種油 五才
- 樟腦 三分 合砥 一匁
- 青砥 二匁 名倉 四匁五分

○漆塗下刻苧 (木地ハ檜ノ柁ヲ以テ最上トス)

一 黒留利苧侖 巾五分 長一間二付

下地漆 四匁九分 上塗漆 貳分六厘 刻苧 一分七厘

一 刻苧侖 巾五分 長一間二付

下地漆 四匁三分 刻苧 三分五厘

○漆調合定法

一 木堅メ目塞摺漆堅メ

瀬ノ 百目 水四十目

一 刻苧合 但汁刻苧ノ節ハ刻苧半減ノ事

瀬ノ 百目 刻苧二十五目 水十目 麥粉見合

一 布着合

瀬ノ 百目 水十目 麥粉見合

一 地合

瀬ノ 百目 水三十三目 地粉百七十目

一 切粉合

一 錆合 瀬ノ 百目 水五十目 地粉六十六目 砥粉百目

一 中塗合方 瀬ノ 百目 水百目 砥粉二百目

一本朱 瀬ノ 三十目 蠟立百目

一 辨柄 漆百目 朱二百目 六番込

一 箔下 漆百目 辨柄六十目 三番込

○ 漆箔定法 尺一坪ニ付

三寸五分箔 十枚三分 三寸四分箔 十一枚

四寸切拔箔 八枚三分 箔下上塗漆 三分

○ 漆ノ價格

漆ハ勿ヲ以テ賣買ス左ニ壹圓ニ付テノ相場ヲ記ス

蠟色梨地 六十匁ヨリ八十匁位

瀬ノ上花 百匁ヨリ百三十匁位

朱漆 八十匁ヨリ百匁位

生正味 瀬ノト略同ジ

上溜 百二十匁ヨリ百三十五匁位

上中 上花ヨリ十匁廉ナリ

塗立 七十匁ヨリ百匁位

中塗 百十匁位

中花 百四十匁ヨリ百六十匁位

中溜 中花ヨリ十匁位廉ナリ

並花、黒溜 二百匁位

春慶 上溜ト略ボ同ジ

○窓ペンキ塗并ニワニス塗工事
仕様書

一色ペンキ四返塗

何坪

一ワニス四返塗

何坪

一右仕様窓外枠及建具、ペンキ塗立前ニ能ク湯洗ヒ致シ木賊ニテ摺磨キ角々ハ少ク丸ミニ致シ南京ニスヲ以テ節及釘頭ヘニ返塗立下地一返塗致シ乾キタル後干割レ其他透目ノ箇所ハ「バテ」込乾燥ノ度ヲ見計ラヒ紙盪ヲ以テ摺磨キ「バテ」瘦セノ所ハ何ケ度モ「バテ」込致平ラカニシテニ返塗致シ三返塗前全断色及村直シ塗刷毛目無キ様見本ノ通上塗可致事

一「ペンキ」調合方ハ「ペンキ」ト油トヲ適宜ニ混合シ着色ヲ定メ金巾ヲ以テ兩度漉シ「コーバル」ワニスヲ吉野紙又ハ漆コシ紙及綿ヲ以テ漉シ入念調合可致事

一窓下枠ワニス塗ハ塗立前ニ能ク湯洗致シ水及ヒ木賊ニテ汚レヲ摺落シ角々ハ少シク丸ミニナシ下地一返塗致シ乾燥シタル後干割レ目透ノ箇所ハ「ワニス」色ニ「バテ」ヲ練リ込ミ「ペンキ」仕様ト同断ニ致シ木賊ニテ摺磨キ二返塗致シ乾燥ノ度ヲ見計ラヒ棕ノ葉ヲ以テ摺磨キ三返塗致四返塗三返塗ト同断ニ可致事

一「ワニス」調合ハ適宜ニ「テレメン」油ヲ入レ吉野紙五枚重ネニテ漉シ下塗及ニ返塗致シ三返塗ハ吉野紙拾枚重ネニシテ漉シ四回目ハ十五枚重ネヲ以テ漉方可致事
一材料渡ノ事

○ペンキ塗工事仕様書

一内外木部見へ掛リ「ペンキ」四遍塗(床板面及和式部屋ヲ除キ)各木材ハ取附前ニ總テ鏝紙ヲ以テ摺リ磨キ尤モ繪様物ハ各操リ形ニ合セ當木ヲ調製シ是レニ鏝紙ヲ仕附鑿足シ飽境等悉ク摺リ落シ其他平物材即天井板等ハ何レモ平坦ナル木片ニ鏝ヲ仕附最初横ニ摺リ又筋違ニ摺リ最後ハ豎ニ何レモ地不陸ナク角々ヲ丸メザル様且横ニ透カシ毫モ飽境等無之様入念滑カニ摺リ磨キ節止メ南京ニスヲ目落ナク塗抹シ干破レ又ハ透キ目釘穴等へ粘力アル「バテ」ヲ能ク摺リ込ム

下塗ハ「ハツックス」製ノ「ジンク」ニ荏ノ油へ南京玉ヲ入レ煮詰メタル油ニ乾燥劑即チ「テレメン」「ドライヤー」等適度ニ混合シ能ク練リ合セ布濾シノ上掻キ溜リ等無之様塗立乾燥ノ上再度「バテ」込ミヲ爲シ尙細カナル鏝紙ヲ以テ「ペンキ」村ヲ摺リ落シ

中塗前全斷

上塗下ハ内外共ニ掛員ノ好ミニ從ヒ色「ペンキ」ニ「ボキル」乾燥油ヲ叮嚀ニ混合シ何レモ布濾シノ上塗リ立上塗ハ漆刷毛を以て色村刷毛村無之様且色境等ハ塗掛ニナラザル様注意ヲ加へ塗上ベキ事

但内廻リ總体ノ上塗ハ「コーペル」ニスヲ混合シ滑カニ且ツ光澤ヲ現ス事規材使用ノ箇所ハ「ワニス」五遍塗原料ハ「ハツックス」製ニシテ入念塗方致可事

一鐵物錆止メハ光明丹ニ白「ペンキ」「ボキル」ノ三種ヲ適度ニ混合ス又鏝「ボール」類ハ鏝紙ヲ以テ叮嚀ニ錆落シ火氣ヲ加へ「コールター」ニ遍塗ノ事

○ペイント類檢定法

ペイント類ヲ製造及ビ使用スルニハ左ノ劇藥ヲ混合スルモノトス

第一 原料 白鉛、赤鉛、白亞鉛、酸化鐵

第二 溶 液 油類、トルペンタイン

第三 緩和劑 「トルペンタイン」

第四 乾燥劑 二酸化滿俺、密陀僧、リサージ、鉛糖、醋酸鉛、硫酸亞鉛、赤鉛、醋酸銅等

醋酸銅等

第五 彩着料 黄土、ラークル、松烟、アンバー等ノ類

ペイント試験

白鉛 純粹ナル白鉛ハ本邦ニテ白粉ト稱スルモノニシテ炭酸鉛ナリ其質純白ニシテ重ク空氣中ニ置ケハ硫化水素ト化合シ鼠色ニ變ズ之ヲ玻璃板ニ載セ火上ニ烘ブレバ黃色ヲ呈ス
水ニ溶解セズ稀鹽酸ヲ澆ゲバ忽チ發泡ス又之ヲ熱スレバ溶解ス若シ稀硝酸ヲ澆ゲバ其溶解速カナリ

質造品

純粹ナル製品ナキニアラザレドモ商品ハ多少他物ヲ混淆ス其重要ナル混淆品硫酸重土、硫酸鉛、硫酸石灰、聖粉(チヨコ)、白亞鉛等ニシテ油ト抱合スル力ニ乏シ又之ヲ以テ物品ヲ塗ルモ其表面ヲ防護スル効ハ白鉛ニ及バザルナリ

商 品

粉末ノ種類ト之ヲ油ニ溶シタルモノト二種アリ油ニ溶カシタルモノハ其量百分七乃至九ノ亞麻仁油若クハ偽造油ヲ含有ス

白鉛ニ混淆シタル硫酸重土ノ量ニ從ヒ名稱ヲ異ニス英國ノ名稱ハ左ノ如シ

Genuine White Lead, New castle White	純粹
Venice White	白鉛壹分 硫酸重土 壹分
Hamburg White	全 壹分 全 貳分
Dutch White	全 壹分 全 參分

硫酸重土試験

白鉛ベイントハ純粹ノモノ稀ニシテ多ク硫酸重土ヲ含有ス茲ニ其試験法ヲ記ス

硫酸重土ヲ混淆シタル白鉛粉末ハ指頭ニテ摩擦スレバ膩質ヲ帶ブルノ感アリトス

ベイントヲ火上ニ置キテ油分ヲ燒去リ殘灰ノ重量ヲ秤リ之ヲ稀硝酸ニ投ジ白鉛ヲ溶解シ殘渣ヲ洗滌シ濾紙シテ漉シ其重量ヲ秤リ硫酸重土トス

又法白鉛ト油ト混ジタルモノヲ其儘強硝酸ニ投ジ少シク煮沸シ油ヲ除キ後之ニ水ヲ加ヘ白鉛ヲ溶解スベシ其重量ヲ量ルハ前ニ同シ

赤鉛

光澤アル赤色ノ粉末ニシテ純粹ナルモノハ日光ノ作用ヲ蒙ラズ然レドモ之ニ酸類ヲ混セバ其原色ヲ失フ

質造品

煉化石粉又ハ赤色酸化鐵等ヲ加フ

試験

ベイント少許ヲマイカ板又ハ鐵板ニ載セ火上ニ置キ油分ヲ燒キ去レバ其純赤鉛分ハ一旦淡黄色ニ變ズ漸次之ヲ冷放セシムレバ再ビ光澤アル原色ニ復ス復セザルモノハ夾雜物ナリ別法坩堝ニベイントヲ入レテ燒キ其殘灰ヲ稀硝酸ニテ溶解スベシ赤鉛ハ凡テ溶解シ唯夾雜物ヲ殘留スベシ

硫化安知母尼ベイント 又安知母尼朱ト云フ安知母尼鐵ヲ以テ製シ

タル無味無臭ノ粉末ニシテ水酒精ニ溶解セズ少シク酸類ノ侵害ヲ蒙ル

酸化亞鉛ベイント 水及油ニ於テハ久キニ堪ヘ鹽酸ニ於テハ溶解ス

硫化水素ト接スルモ黑色ニ變セズ又其製造人使用者ニ於テモ酸化

鉛ノ如キ鉛毒ヲ受クルコトナシ

亞鉛ハ輕キ物質ニシテ能ク油ト抱合セズ鉛塗料ニ比ブレバ同一重
ヲ以テ塗擴クベキ面積ハ寡シトス

硫酸化亞鉛ペイント　グリフィス特許ペイントノ原料ナリ

酸化鐵ペイント　褐色赤鐵礦ヲ以テ製造ス

溶液及緩和劑

油ヲ定油揮發油ノ一種トス

定油ハ植物ヲ以テ製シタルモノニシテ乾燥スルモ蒸發セズ華氏五
百度迄熱スルモ分解セズ之ヲ別テ又二種トス

乾油　空氣ニ接スレバ漸次濃厚トナルモノナリ其中多クペイントニ用
ユルハ亞麻仁油ト胡桃油罌粟油之ニ次グ

不乾油　空氣ニ接スルモ乾燥セザルモノニシテペイント製造ニハ用キザ
ルナリ

トルペンタイン　松又ハ其他ノ樹木ヲ蒸溜シテ製シタルモノニシテ其
樹ノ固有ノ臭ヲ帶ブ之ヲ空氣ニ放置スレバ始メハ透明無色ナレモ

漸次變色シ濃厚トナリ終ニ凝脂ニ化ス

〔揮發石油〕ナフサ油ハ石油原料ヲ以テ製造シタルモノニシテ又ペイント
製造ニ用フ

亞麻仁油　亞麻ノ種實ヲ壓搾シテ採取シタルモノナリ之ヲ生亞麻仁油ト云

フ其比重〇九三〇乃至〇九三七普通ペイント製造ニ用フ空氣中ノ
酸素ヲ吸収スル特性アリ其乾燥ノ遲キト帶色ノ濃厚ナルハ粗惡ノ
徵シトス質良好ナルハ其色青ク且ツ透明ニシテ無臭ナリ久シク之
ヲ貯藏スレバ其惡性ヲ改善ス又油一「ガルロン」ニ白鉛一磅ヲ加ヘテ
攪拌シ一週間沈靜セシメバ大ニ清澄スベシ搾取後六月ヲ經ザルモ
ノヲ用フベカラズ又薄ク玻璃板ニ塗り置ケバ天候ニ由リ差アルモ
二三日ヲ經レバ乾燥ス其効遙ニ他油ニ優レリ

資油及資亞麻仁油

亞麻仁油ニ赤鉛ノ如キ乾燥料ヲ加ヘテ煮沸シタル

モノニシテ之ヲ玻璃板ニ薄ク塗り置キ十二時間乃至二十四時間ニ乾燥スルモノヲ上品トス其時間ノ早キト殘留物ノ硬固ナルヲ以テ良シトス生油ニ比シ濃厚ニシテ色ハ多少黒色ヲ帶ブ

亞麻仁油ハ木理ニ浸入シゴム質ノ膜皮ヲ造リテ大氣ノ觸接ヲ防ギ木林ノ腐蝕ヲ防グ

生亞麻仁油ハ絢美ナル工事又ハ室内用ノペンキニ用ヒ或ハ美麗ナル色ヲ生ゼシメ或ハ顔料ヲ溶クニ用ユ又乾燥速カナラシムル爲メニ生油二升五合ニ白鉛百二十目ノ割ヲ以テ混合シ一週間以上經過セシメ使用スルコトアリ

煮亞麻仁油ハ濃厚トナリシ丈ケ保護ノ度モ稍々強シ專ラ室外ノ工事用トス單ニ亞麻仁油ヲ沸騰セシムルモ可ナリ

乾燥料調合

亞麻仁油 二升五合

光明丹 一昕

アムバー 一昕

密陀僧 一昕

但アムバーハ濃厚色ヲ附與スルノミナリ

右順序ハ亞麻仁油ヲ華氏二百度ニ熱シ其褐色ヲ帶ブル頃浮渣ヲ燒却シテ他品ヲ加ヘ更ニ二三時間四百度ニ熱シ置キタル後蛋白質ヲ沈澱セシメ澄油ヲ得

薄色ノ顔料又ハ白色ニ用ユル調合

亞麻仁油 二升五合

密陀僧

八百四十五々

普通工用調合

亞麻仁油 二升五合

鉛丹

百八十々

亞鉛ペンキ用調合

鉛類ヲ混合セズ過酸化滿俺ノ粉末ヲ用ユ其分量ハ

亞麻仁油ノ重量百分ノ五

但五六時間程沸騰セシメ冷却シタル後漉シテ用ユ

總テ乾燥料ハ何レモ油分ノ酸化ヲ助ケ固結ヲ迅速ナラシム爲ナリ然レドモ薄色ナル仕上塗及ビ能ク乾燥スル顔料ニハ用ユルコトナシ是レニ用ユルニハ一色ニ一種ノ乾燥料ニ限ルベシ其種類左ノ如シ

- 一 密陀僧(則チ酸化鉛)ハ普通ニ用ユルモノナリ
- 一 酸化滿俺ハ乾燥速ナルモ暗色ナルヲ以テ濃色ペンキ用
- 一 油中ニ溶キタル鉛糖(醋酸鹽及皓礬(硫酸亞鉛)ハ殊ニ薄色ノペンキ用
- 一 銅綠(即チ醋酸銅)ハ濃色ノペンキ用
- 一 鉛丹ハ其色赤色ヲ帶ブル故ペンキノ色合ニ依リ使用スル能ハズ效能ハ密陀僧ニ劣ル
- 一 硫酸滿俺ハ亞鉛ペンキニ使用スル乾燥料ノ最上品又ハ硫酸亞

鉛ヲ使用スルコトアリ

帝列賓油

通帝帝列賓油ノ比重ハ〇・八七ニシテ華氏三百六十度ニ於テ煮沸ス之ヲ空氣ニ直接セシムレバ蒸發シテ脂ヲ殘留ス又之ヲ薄ク玻璃板ニ塗り放置セバ二十四時間ニハ全ク乾燥ス上品ハ下品ヨリ輕ク且ツ引火シ易ク其臭氣モ上品ハ下品ヨリ佳ナリ又乾燥後ノ殘留物モ寡シ

帝列賓油ニハナフサ油ヲ混淆スナフサ油ハ蒸發後脂ヲ殘留セズ又ペイントヲ硬固ナラシムル効能ナシトス良好ノ物ハ無色ナリ

帝列賓油ハ(テレメン)亞麻仁油ノ量ヲ減ジ塗液ヲ稀薄ナラシメ塗方容易ナラシメ價格廉ニシテ白色ペンキ塗ニハ亞麻仁油ノ如ク黃色ニ變ズル憂ナク塗抹後ハ速ニ蒸發シテ痕跡ヲ留メズ故ニ木材保存上ニ就テ毫モ關スル處ナシ其亞麻仁油ニ劣ルハ光澤減ジペンキノ質薄弱トナル故ニ兩者得失ハ適度ノ混和ニ依リ調和ス

日光ニ晒ラサル、處ニテハ泡ヲ避クル爲メ必要ナリ又膜皮ノ龜裂ヲ防止スルノ効アリ寒冷ノ候ニハ乾燥ヲ迅速ナラシムル爲メ油量ヲ増加スベシ

上等工事ノ仕上塗ニテ艶消トテ材料保護ヨリ寧ロ面ヲ一様ニ乾燥セシメ閃眼性ノ反射ヲ減ゼシメン爲メ亞麻仁油ヲ用キズ帝列賓油ノミ使用スルトキハ迅速ニ乾燥スベシ然レドモ地色ヨリ多少稀薄ニナルベシ若シ日光ニ曝ラサル、トキハ煮油ヲ使用シ帝列賓ハ第二回塗ニ於テ二分ノ一第三回以後ハ全ク混和スベガラズ

○荏ノ油

荏胡麻ノ實ヨリ絞リ取リタルモノナリ不正品ハ石油ヲ混ズ又荏ノ殆ンド半額ナル桐油ヲ混ズルコトアリ
塗リ上ゲテ石油ヲ混ジタルハ安傘ノ如ク色白ク日ヲ經ルニ從ヒ石油ハ蒸

發スル故ニ油氣減ズルナリ又桐油ヲ混ジタルモノハ傘ナドノ筋ノ顯ハレ居ルハ即チ此現象ナリ

○鉛ペンキ

鉛ペンキハ用途最モ廣ク且ツ最良ナル塗料ナリト雖トモ腐敗動物ノ附近又ハ市街地ノ如キ硫酸氣多キ場所ニ使用スル時硫化鉛ヲ化製シ變色ノ憂アルノミナラズ使用者ヲ中毒スルノ憂アリ
色ペンキハ着色シタル販賣品アルモ新ニ製スルニハ顔料ヲ油ニテ練リタル上白ペンキニ混和シ其適量ヲ最後ノ二層ニ混和スルヲ要ス濃淡ニ依リ調合一定セザルモ通常左ノ通り

面拾坪ニ付 五百目乃至一貫目

亞鉛ペンキハ其質水及ヒ油ニ堪へ鹽酸ニ溶解ス其白鉛ペンキニ比シ劣ルモノハ

- 一 容易ニ油分ト混和セザルヲ以テ「」ビ惡敷且ツ乾燥ノ時期永シ
 - 二 刷毛遣ヒ困難ナルヲ以テ勞力多シ
 - 三 雨水中ニ含有セル炭酸ノ作用ヲ受ケ溶解スルヲ以テ保存宜シカラズ
 - 四 乾燥十分ナラザル木材中ニ存在スル酸類ニ犯サル、事大ナリ
- 優レル點
- 一 中毒性ナク臭氣ヲ帶ビザル事
 - 二 鉛ペンキノ如ク變色スル患ナシ
 - 三 乾燥スルトキハ膜皮極メテ硬堅ナルヲ以テ屢々面部ヲ洗滌スルニ當リ多年間膜皮ヲ損ゼズ且ツ堅硬ハ能ク面上ヲ琢磨スルニ適ス
 - 四 鉛ペンキハ膜皮半透明ルナヲ以テ下地ヲ透見セシムル事アリト雖モ亞鉛ペンキノ膜皮ハ之ニ反シ不透明ナルヲ以テ下地ノ暗色ナル場合ニ適用シ得

酸化鐵ハ赤色、黒色、黄褐色等ニシテ此主要品タルペンキハ鐵材ヲ塗ルニ用ヒ

テ効アリ鉛ペンキヲ鐵材ニ塗抹スルトキハ鉛ト鐵ノ間ニ流電氣ヲ起シベ
ンキノ質ヲ害スルモ酸化鐵ハ此害ナシ然ドモ酸化鐵製ペンキハ面上ニ鏽
蝕ヲ生ズルモノナルガ故ニ赤色酸化鐵ヨリ製スルモノヲ良トス調合ハ

酸化鐵 二分 亞麻仁油 一分

百二十目ヲ以テ鐵板面九十平方尺ヲ塗抹スルコトヲ得

(酸化鐵ハ油ト混ズル七八時間前ニ粉末トナスヲ良トス)

○顏料

顏料ニハ天然土或ハ特ニ製造シタル者ヲ用ユ原色ハ赤青黄ノ三色トス此ヨ
リ間色ヲ製シ間色ヲ混合シテ更ニ種々ノ色合ヲナス左記調合表ノペンキ
顏料ハ日光、暗色、濕氣、瓦斯、鉛或ハ鐵ニ遇フモ變色シ難キ最良品ニシテ衛生
上無害ナリト云フ

特	性	顏	料	成	分
---	---	---	---	---	---

乙	甲	甲	甲	甲	乙	乙	甲
丙	丙	乙	乙	乙	丙	丙	丙

紫色 オーカイ	紫 色	紫 色	緑 色 コバルト	純 粹 ク ロ ー ム	緑 色	焼 キ タ ル 羅 馬 オ ー カ ー バ ル ト 、 サ イ ア ナ	樺 色 オ ー カ ー	樺 色	獨 乙 群 青	佛 蘭 西 群 青	青 色 オ ー カ ー
------------	--------	--------	----------------	----------------------------	--------	--	----------------------------	--------	------------------	-----------------------	----------------------------

天 然 土	植 物 ヨ リ 製 ス	コ バ ル ト 、 亞 鉛 酸 化 鐵	酸 化 格 羅 繆 母	全	全	天 然 土	陶 土 、 炭 酸 曹 達 硫 黃 、 木 炭	陶 土 、 酸 化 コ バ ル ト
-------------	----------------------------	--	----------------------------	---	---	-------------	--	---

乙	丙	丙	丙	丙	甲	乙	乙	乙
丙				乙		丙		

青 色	赤 色 オ ー カ ー	茜 土	安 質 母 尼 朱	朱 色	赤 色	黄 色 オ ー カ ー	黄 色 加 土	黄 色	白 色 錫 鑛	白 色 亞 鉛 鑛	白 色 巴 爾 チ ツ ク 、 ホ ワ イ ト
--------	----------------------------	--------	-----------------------	--------	--------	----------------------------	------------------	--------	------------------	-----------------------	--

天 然 土	植 物 ヨ リ 製 ス	硫 化 安 質 母 尼	硫 化 汞	硫 酸 カ ド ミ ア ム	天 然 色 ノ 粘 土	硫 酸 錫	硫 酸 重 土	酸 化 亞 鉛
-------------	----------------------------	----------------------------	-------------	---------------------------------	----------------------------	-------------	------------------	------------------

ナリ普通ノ方法ハ水中ニテ鉛丹ヲ磨キ碎キテ之ヲ強キ膠水ニ混ジ其熱キ中ニ節ニ塗ルナリ斯クテ凡ソ十分間ヲ經テ次ニ油中ニ溶キタル鉛丹ヲ沸騰油トターペンタインニテ溶キ再ビ節ニ塗附クルヲ膠節止メト云フ
 又新ニ沸化シテ尙熱アル石灰ヲ凡廿四時間節ニ塗リ然ル後ニ剝落シテ更ニ前ノ膠節止ヲ塗ルナリ尙不充分ナルトキハ亞麻仁油ニ鉛丹ト白粉ヲ混加シタルモノヲ塗り乾燥シタル後輕石ニテ平滑ニ研摩スベシ
 又右石灰ヲ塗りタル後火熨斗ヲ當テ次ニ平滑ニ磨スルコトアリ
 上等建築ニハ節ヲ少ク穿チ取り其内ニ白鉛ジヤパン及ターペンタインニテ作りタルパテヲ填充スルコトアリジヤパンハ鉛ペンキヲ油ニテ溶キ之レヲコーバル或ハアニメーバニシニ混ジテ製スルモノナリ
 右ノ外金或ハ銀箔ヲ節ニ張りテ節止メトナス法アリ

○下 塗

節止メヲ終リタル後多量ノ鉛丹ヲ含有スルペンキヲ以テ塗抹スル故ニ桃

色ヲ呈ス乾燥速カナリ此目的ハ木理ヲ填塞シ以テ中塗以上ノペンキヲ吸收スルヲ防グ爲ナリ故ニ多量ノ油ヲ要ス然ルニ費用ノ點ヨリ膠ノ溶液中ニ少許ノ吳粉ヲ混和シタルモノ又ハ生澁ノ類ヲ代用スル事アレドモゴム質ノ膜皮ヲ生ゼザルノミナラズ後日剝落スルノ患アリ下地ノ油染タル時又不潔ニシテ通常ノ下塗ヲ施スコト能ハザル場合ノ外使用スベカラズ刷毛ハ其尖端木材表面ニ觸ル、様垂直ニ使用シ斜ニ使用スベカラズ(以下同)

○パテ止メ 村直シ

下塗濟ノ上二度塗ニ着手スル前ニ砂紙或ハ輕浮石ニテ面上ヲ磨研シ罅隙或ハ孔等へパテヲ填充スベシ
 又パテノ代用トシテ刻苧ヲ使用スルトキハ効果宜シト云フ

○二度 塗

下塗充分乾燥ノ上施工スベシ然シテ其充分乾燥ノ上尙ホ節等ノ顯ハル、キハ膠ニテ其上部へ銀箔ヲ張附クベシ通常行ハズ

○三度塗四度塗

二度塗終リテハ三度塗ヲナシ乾燥ノ上能ク面上ヲ磨研シ四度塗ヲ施スナリ上等ノ工事ニテハ一度毎ニ村直ヲナシ面部ノ滑性ヲ奪ヒタル後ニ非ザレハ次層ヲ塗抹スル事ナシ
通常ハ三度塗又ハ四度塗ヲ以テ仕上トス

○艶消塗

上等ナル内部工事ニハ油ヲ入レズターペンタインヲ混ジタルペンキヲ以テ五度塗ヲ施スコトアリ此仕上塗ハ上塗ヨリ稍々其色ヲ薄クシ手早く塗抹スルヲ要ス此塗方ハ風雨又ハ洗淨ニ堪ヘザルヲ以テ豫メコーバルヴァニスヲ混和セハ差支ナシ又當初ターペンタイン中ニ膠ヲ混ジ置ケバ洗淨ノ目的ニ十分有功ナリ
屋外工事ハターペンタイン油ノ量ヲ減少シテ亞麻仁油ノ割合ヲ増加セザルベカラズ

○柰目塗

普通ペンキ四度或ハ五度塗仕上シタル後亞麻仁油トタルペンタイント等分ニ調合シタル液体ニ適宜ノ顔料ヲ加ヘテ仕上色トナシタルモノニテ塗抹シ更ニ各種ノ顔料ニテ仕上塗ヲ爲スモノナリ
顔料ハ普通ノ工事ニテハ清水ニ解キタル上麥酒少量ヲ加ヘタルモノナルモ檜材ノ柰目塗ハ濃色ヲ要スル故タルペンタイン及タルペンタインヴァニスニ顔料ヲ解キタルモノヲ塗抹シタル上未タ乾燥セザルニ當リ亞麻仁油及タルペンタイン油ニ浸シタル平刷毛ニテ各種ノ柰目ヲ畫クベシ右終ル後普通工事ニ在テハコーバルヴァニス二度塗仕上クルモノナリ
上等ノ工事ニテハ柰目ヲ畫キタル上麥酒ニ混ジタル顔料ニテ更ニ一層塗抹シタル後ヴァニス仕上ニ附スルモノナリ

○鐵材ペンキ塗

鑄鐵ハ模型ヨリ取出シ直ニペンキヲ塗リ次ニ乾燥スルヲ待テ二度塗ヲナ

ス通常鑄鐵ノ腐蝕ヲ防クハ二度塗ヲ以テ足レリト云フ鍊鐵ニハ先ヅ鑄ヲ堅固ナル針金刷毛ニテ摩リ取り尙削子ヲ以テ刮キ又稀薄ノ酸類(稀硫酸等)ヲ注ギ然ル後清水ニテ能ク洗淨スルナリ又一法ハペンキ塗ヲ塗抹スルニ臨ミ鑄ヲ削リ落シ尙殘ル所ノ鑄ハ腰ノ強キ刷毛ニテペンキト共ニ塗附クルナリ鑄深キ時ハ之ヲ熱シテ酸化鐵トナス(鐵材害ナシ)凡テ鐵材ヲ熱スレハペンキノ附着宜シ

鐵面ノ磨キタルモノハペンキ塗ヲ施サントセバ其調合ヲ白鉛ト獸脂トニナスベシ

一 亞鉛板ニテ包被セル面ヲ直ニペンキニテ塗抹スル時ハ剝脫スル恐アルヲ以テ左ノ調合ニテ藥液ヲ製シ一二回塗抹シ二十四時間以上ヲ經過シタル後等分ノ亞麻仁油及松根油ヲ以テ溶シタル鉛丹ニテ下塗ヲ爲シペンキ塗ニ取掛ルヲ必要トス而シテ如何ナル場合ニテモ始ヨリ用油塗料ヲ用ユベカラス

但窓臺胴蛇腹等ノ如ク仕上ヲ石ニ類似セシムルニハペンキノ上層ヲ希

望ノ石色ト爲シ其未ダ乾燥セザルニ當リ面上ニ細砂ヲ撒布スルヲ可トス

藥液調合(重量)

清水	六十四	鹽化銅	一
硝酸銅	一	礫砂	一
鹽酸	一		

○塗喰壁ニペンキヲ塗ル法

漆喰壁ノ塗方ニ注意ヲ加ヘ罅裂等ノ生ゼザルヲ肝要トス壁面ノ充分乾燥シタル後施スモノトス最初膠水白泥ヲ以テ壁面ヲ塗り置キ二年ヲ經テ壁面ヲ刷毛ニテ清メペンキ塗ニ從事スルヲ良トス

第一法 壁喰上へ膠水ニテ下塗次ニ普通ペンキ四度塗

第二法 煮亞麻仁油ヲ二三回塗其乾キタル上弱キ膠水ヲ塗ルナリ膠水

ハ鉛丹ト合ヒ吸收ヲ止メ且ツ色ノ不揃ナキ様ニナスノ効アリ然ル
後ペンキ二三度塗

第三法 白鉛亞麻仁油及少量ノ密陀僧ヲ混合シタルモノニテ下塗其乾
燥シタルヲ待テ同様ノ混合物ヲ塗り數日ヲ經テ少量ノターペンタ
インヲ合シ前ヨリ少シク濃厚トナシタルモノヲ以テ三度塗ヲナス
四度塗ニハターペンタイント油ト同量ニ入レテ稀薄トナシタルベ
ンキヲ塗抹シ次ニ艶消塗ヲナス

○紙或ハ布ニペンキ塗法

先ヅ強キ膠水ヲ以テ下塗ヲナスベシ殊ニ布ハ油ペンキニテ下塗ヲナストキ
ハ速ニ腐蝕スルモノトス

○爐格ニペンキ塗法

爐格ヲ黑色トナスニハ純粹ノ土瀝青四百八十目生亞麻仁油六合三勺ターペン
タイン二升五合ノ調合物ヲ以テスルナリ

○ジヤバンノ塗抹法

普通ノペンキハ耐火性ニアラザルヲ以テ高温度ヲ受クルトキハジヤバンノ
如キモノヲ使用スルヲ可トス先ヅ塗抹面ヲ洗フニターペンタイント清淨
ナル鋸屑ヲ以テシ其面磨キノトキハ硫酸一分ヲ水二拾分中ニ入レタル硫
酸水ニテ洗淨スベシ然ル後乾燥シタル胡粉白鉛密陀僧ヲ等分ニ合セコ
バルトターペンタインノ少量ヲ混ジテ下塗ヲナシ乾燥ノ上輕ク摩リテ上
塗ヲナス上塗ハターペンタインバニシ或ハジヤバン等何レヲ用ユルモ宜
シ

○ペンキ塗替法

塗替面ヲ石鹼ト水トヲ以テ拭フベシ脂氣アルカ燻ブリ居ルトキハ石灰水ニ
テ洗滌シ乾燥スルニ及ビテ砂紙或ハ輕浮石ニテ摩リ罅裂等ハバテ止ヲナ
シペンキ塗ヲ施スナリ
古ペンキ面ノ甚シク膨レ居ルトキハ溶解水ヲ塗抹シ悉ク之ヲ剝脫スベシ

其溶解水トハ石鹼拾五匁ボツタース三十匁ヲ熱湯中ニ溶キ之ニ生石灰百二十匁ヲ混ジ熱キ内ニペンキ面ニ塗り十二時間乃至廿四時間其儘ニ置キ次ニ湯洗悉ク剝脱セシムルナリ

○古ペンキ面ヲ洗フ法

眞珠灰ノ溶解水ニテ洗ヒ若シ脂氣アルトキハ生石灰ヲ水ニ合シテ洗淨スルコト數回ナレバ清潔トナルベシ

○ワニス塗

性質ハ乾燥ノ遲速、膜皮ノ硬度、膜皮ノ韌性、光澤、光澤永存、保存性ノ如何ニ由リ其良否ヲ判定スベキモノトス
用途ハペンキノ面上ニ塗抹シテ光澤ヲ與ヘ保存ヲ助長スル事多シト雖ドモ亦屢々直ニ木部ヲ塗抹シテ其固有ノ優美ナル奎目ヲ表彰セシメ或ハ塗壁及ビ張附ノ面上ヲ塗抹スル事アリ

種類

- 一 アムバー、ゴム、アニメ、或ハコーバルノ如キ至硬ナル樹脂ヲ亞麻仁油中ニ溶解セルモノヲ油ワニスト云フ乾燥ニ多時ヲ要スレドモ膜皮至硬ニシテ保存最良ナルヲ以テ外部諸工及頻繁洗滌ヲ要スル位置ニ適當ナルモノトス
- 一 軟質ナルゴムヲ最良ノ松根油ニ溶解セルモノニシテ油ワニスヨリ低價彈性ニ富ミ乾燥迅速且ツ淡色ナリ雖ドモ韌質保存ハ遙ニ劣レリ是レヲテレメンワニスト稱ス
- 一 ゴムヲアルコール中ニ溶解セルモノヲアルコールワニスト稱ステレメンワニスニ比シテ乾燥極メテ迅速且ツ硬性ニシテ光澤強シト雖ドモ龜裂ヲ生ジ剝脱スルノ性アルヲ以テ専ラ内部諸工事ニ應用スルナリ(一名ラツクト稱ス)
- 一 アルコール一升ニ魔黃(シエラツク)七十匁ヲ冷所ニ溶解シタルモノニシテ布片ニ浸シ木部ニ摺込ミ艶出スモノナリ日本家ノ素木造ノ造作向ニハ妙

ナリ光澤美ニシテ汚染ヲ防クベシ遍數三四度ニテ充分ナリ
一普通ペンキ中塗ニ適宜ノ顔料ヲ加ヘテ仕上ゲタル上ワニスヲ一回塗抹ス
レバ大ニ費用ヲ減ズルノミナラズ保存方反テ四遍塗ノペンキヨリ優レル
ヲ見ル施行迅速外觀美ニシテ能ク洗滌ニ堪ユル性ヲ具有ス

一新ニ仕上ゲタル漆喰面ニワニスヲ塗抹スル時ハ稀薄ナル膠糊ヲ用ヒテ下
塗ヲナスベシ又木部ハ極メテ乾燥セル材料ニテ造リタル上前法ニ倣ヒ膠糊
ヲ塗抹スル時ハ木理ヲ填塞シテ面部ヲ平滑ナラシムルト共ニワニスノ量
ヲ減ズルノ効アリ木部ハ通常三四回ニテ十分ナルモノトス又罐入出來合
品ヲ使用スル例ナルヲ以テ強テ調合ヲ研究スルノ要ナカラシ

乾燥時間

- アルコールヲ用キタルモノハ 二時間乃至三時間
- テレメン油ヲ用キタルモノハ 六時間乃至八時間
- 亞麻仁油ヲ用キタルモノハ 廿四時間

ワニス一ピントハ十六平方碼ヲ塗抹シ得

○一般塗師ノ用ユル

ペンキ
ワニス 塗調合及其順序 (前ト重複スルモ參
考ノ爲メ記載ス)

○中 等

- 一節止メ 二、バテ飼(二日間乾) 三、下塗 四、ペーパ
- 五、中塗(一日間乾) 六、上塗(一日間乾)

○上 等

- 一節止メ 二、バテ飼 三、下塗(二日間) 四、ペーパ
- 五、中塗 六、上塗(五、六一日間) 七、ペーパ 八、白ニス及ワニス塗

○節止メ

節止メハシエルラツクヲアルコールニテ溶解シタル液ニシテ瓶一本四合入
ニシテ板三拾坪迄塗ルコトヲ得
一バテ飼ハ節穴及割レ目ニ込ムルモノニテ一坪ニ付半斤ト見積ルナリ

一 下塗及中塗等ニ用ユルペンキ一罐ノ中ニドライヤー一斤入ル之ハ乾燥セシムルタメナリ

一 ベーバトハペンキ塗ノ面ノ乾キタル上ヲ紙ヤスリニテ磨キ地ヲ平ニスルコトナリ

一 上塗 並ペンキ塗上等ノ分ハ並ペンキ塗ノ上ベーパー掛ケ白ニス又ハワニスヲ塗ルナリ以上白ペンキ塗ノ場合ニシテ白ペンキ一罐ノ中ヘポイロ五升混合ス

白ペンキ一罐二十八斤入 樹目二升七合乃至貳升八合
罐底ニ印アリ 向獅子又ハ二番横文字 菱形印等尤モ使用セラル

ポイロ一罐一斗二升入

一 ペンキ一罐ノ中ヘポイロ五升入レタル物ハ凡ソ三拾五坪ヨリ四拾坪迄塗上リ

一 下塗、中塗、上塗共平均シテ一度ニ付板一坪ニペンキ一合七八勺ヲ要ス
一 塗手間ハ三度塗仕上ニテ一坪ニ付貳分

一 下等ニテハポイロ代用トシテ^{「キ」}油^{「三」}合セテ一升ヲ八合ニ煮詰メ用ユ

一 ペンキ塗ノ調合中テレメンヲ入ル、ハペンキ一罐ニ付テレメン四合程ナリ乾燥ハ速キモ艶ヲ消スモノナリ普通一斗入ナリ

一 ラツク塗ハ節止ニアルコイル入りタルナリ割合ハラツク一瓶ニアルコイル(七十度)五勺入ル、ナリ亦色ヲ好ム時ハ膠明礬ニテ種々ノ繪具ヲ入ル、ナリ明礬ハ足ヲ伸バス爲メナリ右塗物ハ乾キ速シ一日ニ二度三度モ塗ルコトヲ得塗上ゲノ後綿ニテ磨擦スレバ艶出ヅルナリ

○ワニス塗

一 上等ハコーバルワニス、中等キンボシ印、下等バシヤ印、一罐一升貳合入ニシテ一罐ニ付テンメン一合入ル

一 右塗下ニ目留ナスベシ是レハアラビヤ糊カヒメ糊ヲ以テ砥ノ粉ヲ板ノ上ニ塗り附籠ヲ以テコギ取り殘部ハ雜巾ヲ以テ拭ヒ取り然ル後コーバルヲ以テ三度塗ルナリ一日ニ一度塗ルノ乾キ加減ナリ板一坪ニ付ニス七勺ヲ

煮亞麻仁油ハ乾燥油ニシテ調合前出ニ付略ス

材料ノ性質工事ノ等級及氣候其他ニ關係スルヲ以テ一定スル能ハズト雖
亦一般ヲ示スノミ室外工事ニ在テハ原料ハ亞鉛ペンキノ方宜シト云フ

○白茶色ペンキ塗百坪ニ對スル原料調

舶來向獅子白ペンキ	百四十斤	舶來橫向獅子ペンキ	五斤
色油(アンバ)	五斤貳厘	ドライヤ	十八斤
ポイロ油	貳斗四升	テレメン油	五升
コーベルワニス	三升	パテ	三百匁
布	五十枚	手拭雜巾共	一反五分
朱	壹匁		

○薄茶色ワニス塗百坪ニ對スル原料調

節止メニス	一斗九升	コーベルワニス	貳斗四升
テレメン油	七升一合	ヤシャノ實	一貫匁
パテ	百五十匁	木賊	三連
棕ノ葉	三連	手拭雜巾共	一反五分

○ワニス五遍塗仕上ケ 十坪遣イ

ワニス	一升三合	ラック	一升五合
テレメン	三合	ヤスリ紙	二枚
塗手間	五人		

○白ペンキ三遍塗 貳十五坪遣イ

白ペンキ	二十八斤入	一罐	ポイロ油	七升五合
節止メ	四合入一瓶	塗手間	五人	三百十五

○白ペンキ上等三遍塗拾坪遣イ

白ペンキ	十五斤	ボイロ油	三升五合
パテ	一斤	フシ止メ	一合
塗手間	四人半	ヤスリ紙	二枚

所要ノ材料ハ

テレメン油 艶消ワニス。ペンキ。油。節止
 ガラス紙。 漆コシ紙。 其他塗手間

○白ペンキ艶消磨キ六返塗

白ペンキ	拾斤。	ボイロ油	三升
フシ止	一合。	パテ	一斤

○並白ペンキ三度塗十坪遣イ

塗手間 三人

○チヤン塗調合

唐胡麻油	一升。	チヤン	百四十目
灰 墨	一袋四分		

○テール

テール一罐ハ登斗入 夏季六月頃ニ向フテ「テール」ハ「アスワルト」ヲ入黒味ヲ出ス鐵物一返塗六尺面坪ニ貳合ヲ要ス一樽ハ五斗五升七合入ナリ

○コールダ

コールダ一罐凡壹斗入 一升五百七十五匁一升ニテ木材貳坪八合ヲ塗ルコトヲ得鐵物一返塗六尺面坪ニ付貳合五勺ヲ要ス

良否ノ試験ハ亞鉛板ノ面ニ塗抹シ約一週間大氣ニ晒シタル後チ四十度以上ノアルコールニテ洗滌スルモ剝脱セザルモノヲ良シトス

○澁ノ製法

澁柿ヨリ製ス實ノ大ナルモノハ量多キモ劣等ナリ小ナル者ハ量少キモ品優レリ何レノ地ニテモ柿樹アレバ産スルモ山城宇治醍醐邊ノ物ヲ以テ上品トス澁柿ノ中ニテ「青ツ」小「カキ」ノ二品ヨリ搾ルヲ最良トス未熟ノ青柿ヨリ搾取ル故ニ秋ノ彼岸ヨリ十日前ヲ以テ其期トス青柿ノ中ニ若シ熟柿交ハルトキハ僅カニ一個ニテモ終ニ全澁ヲ腐敗スルニ至ルベシ
青柿ヲ確ニテ搗キ布袋ニ入レ或ハ竹ノ簀ヲ用ヒ器械ニテ搾ル些シク水ヲ加ヘ或ハ水ニ代ユルニ二番澁ヲ用ユルヲ尤モ宜シトス(澁ヲ取リテ後再ビ水ヲ加ヘテ搾ル之ヲ二番澁トス)一駄四十貫目ノ柿ニテ澁ヲ得ルハ四貫目ヨリ八貫目ニ至ル之ヲ上澁トス一樽三斗入ナリ

○生澁塗

一生澁塗調合ハ澁五分水五分ヲ混合貳返以上塗方スベシ

○黒澁塗

一黒澁塗ニハ適量ノ灰墨ヲ加エ水ハ混ズベカラズ又法松煙漬墨澁煉二度塗澁三度塗

山城産生澁 一樽 三斗五升入

- 極 稀 四〇〇〇
- 大極上 三九〇〇
- 飛 切 三七〇〇
- 最 上 三四〇〇

生澁一升ニテ六尺面坪最初塗六坪二度以上ハ七坪位塗り得ルナリ
一堀立柱ノ根焼ヲナシ之レニタールヲ塗ルニハガスタール四分トストツク
ホルムタール一分トヲ混和シ之レヲ煎テ其沸騰セシキ生石灰少量ヲ入レ
根焼セシ部分ノ冷ザル内ニ刷毛ノ類ヲ以テ叮嚀ニ塗ルナリ

○ワニス、ペンキ、コーラター塗方試験

ワニス ハ五匁ニテ幅一尺、長一尺六寸五分即一平方尺六五ヲ塗りタリ
白ペンキ ハ十匁ニテ幅一尺、長一尺七寸五分即一平方尺七五ヲ塗りタリ
黒ペンキ ハ五匁ニテ幅九寸、長一尺五寸五分即一平方尺三九五ヲ塗りタリ
赤ペンキ ハ十匁ニテ幅一尺、長一尺五寸五分即一平方尺五五ヲ塗りタリ
鼠ペンキ ハ十匁ニテ幅九寸、長二尺五分 即一平方尺八四五ヲ塗りタリ
コーラタール ハ五匁ニテ幅九寸、長二尺七寸即二平方尺四三ヲ塗りタリ
本試験ハ華氏寒暖計室内ニテ七十六度ヲ示セシ天氣清朗ナル風ア

リシ日ニシテ木材ハ松材中鉋削ヲナシタルモノヲ日蔭ニテ塗方
ヲ施シタリト云フ

○ペンキ一罐ニ付(尺坪)

一度塗 七百二十坪。 二度塗 五百四十坪。 三度塗 四百三十二坪
三度塗手間 六尺一坪ニ付一分五厘。 濾塗手間 全二坪ニ付八分七厘
ペンキ一罐 長九寸五分徑五寸一番口 二十八斤入
上塗 十二坪(六尺坪) 並 十五坪

○ペンキ量算式

○第貳回塗

塗抹ノ面積自乗ヲ二百ニテ除シ其商ハペンキノ量ヲガロンニテ示ス
(面積ハ呎ニテ示ス)

○第三回塗

塗抹ノ面積ノ自乗ヲ十八ニテ除シ其商ハ白鉛ノ重量ヲ封度ニテ示ス
(面積ハ呎ニテ示ス)

○ワニス、ペンキ、コールタール塗量

名稱	一平方ニ要スル目方	面積一坪ニ要スル目方
ワニス	三匁〇三〇	百九匁〇八〇
白ペンキ	五匁七一四	二百五匁七〇四
黒ペンキ	三匁五八四	百廿九匁〇二四
赤ペンキ	六匁四五一	二百三十二匁二四〇
鼠ペンキ	五匁四二〇	百九十五匁一二〇

コールタール	二匁〇六〇	七十四匁一六〇
--------	-------	---------

ラツク塗 一坪 壹圓五十錢位 ワニスノ倍

アルコホールノ強キモノニ溶合スレバ乾キ早シ

一ガロン即チ貳升五合ノ光明丹ニテ鐵面二十坪程ヲ塗ル

一鐵板繼目塗

上等光明丹一袋 廿五錢位

白ペンキ、松脂又ハホイロ油ニテモ交用

一下等コールタール舶來松脂ヲ用ユ

一光明丹一袋百目ニ付 十五錢位

○膠

品種	標位	概價	品種	標位	概價
上三千本	一貫目ニ付	二〇〇〇	佛蘭西製	一封度ニ付	二四〇
並三千本	全	一、五〇〇	厚口	全	五五〇
京上漉	全	一、二五〇	短冊	全	二三〇
上漉	全	一、一〇〇	上短冊	全	二五〇
大上漉	全	一、二〇〇	專賣粉膠	全	三〇〇
廣漉	全	一、八〇〇			

一精良ナラザル膠中ニ存在スル不淨分ヲ除却スルニハ先ヅ冷水中ニ於テ軟化セシメ汚汁ヲ出ササルニ至ル迄數回洗滌シタル上細片ニ碎キ更ニ布袋ニ盛り華氏六十度ノ溫度ヲ有スル多量ノ冷水中ニ沈メ置ク時ハ不淨分ハ袋外ニ浸出シ袋内ニハ精良ナル膠ヲ留ムベシ

右ノ方法ヨリ生ゼル精良品ヲ其儘ニテ華氏百二十二度ニ熱シタル上濾過ス

ル時ハ無色透明ナル膠ノ溶液ヲ得ベシ

強力(抗伸力)

ビバン氏ノ實驗ハ一時方四千呎ニシテ通常ノ木材ヲ糊着スルニ當リテハ小口ト小口ノ時ハ同ク七百十五呎又側面ト側面トノ時ハ全五百六十二呎ヲ下ラズト云フ

耐水膠

- 甲 亞麻仁油ト白鉛トヲ混スベシ但シ其量ハ膠ヲシテ稍白色ヲ帶バシムルヲ度トス
- 乙 亞麻仁油四オンス(約七合)中へ生石灰一握ヲ混ジ濃厚トナル迄煮詰タル上錫板上ニ擴ケ陰所ニ於テ乾燥スル時ハ火熱ノ爲メ容易ニ溶解セシメ得ベキ一種ノ糊着料ヲ得ベシ
- 丙 煮沸シテ脂肪分ヲ去リタル牛乳約一升三合へ膠一呎ヲ加ヘタルモノニテ膠ヲ溶解スベシ

丁 膠ヲ解クベキ清水中ニ重クローム酸ボツターヌヲ混入シ置クベシ
 其量ハ實驗ノ上決定スルヲ可ナリトスレドモ若シ其違ナキニ當リ
 テハ藥品ノ量ヲ膠量五十分ノ一ト定ムルヲ得ベシ

戊 ナフサ又ハコールター十二分ゴム一分ヲ文火ニテ熔解シタル上之
 ニシエラツク(魔黄)二十分ヲ混ジ金屬板上ニ擴ゲテ乾燥セシメ置キ
 用アルニ當ツテハ火熱ニテ熔解シ刷毛ニテ塗抹スベシ

○參考資料

ペンキノ説

建築雜誌第五號七十六頁

水彩塗料カルカリウムデイステムバー

全第九十一號二百十九頁

第十一編 經師職之部

○經師職仕様書

一上等兩面張襖

右仕様骨檜造リ暨及上下共框見付七分見込六分組子暨四本横拾貳本見付見込共六分四方框へ柄指ニ致シ竹釘ヲ以テ打付隅々〔ヒウチ〕入引手板入骨締リ張西ノ内紙箕張半紙白紙打付張美濃紙袋張半紙白紙ヲ以テ貳返張上張金沙子蔭上等芭蕉布ヲ以テ張立縁檜七分角上下縁共見付八分見込前全斷定木縁一寸厚三分大面取リ暨タ地蠟色塗リ折合釘七寸步ニ打縁へ釘堀致シ糊入送リ込ミ引手鐵物見本ノ通三篇減金ニ致シ堀込鋳留出來之事

一兩面間中襖 五篇張

右仕様並中平骨立合下張厚紙一篇半紙三篇上張宇田白地押形唐紙張花塗突縁合折釘ニテ打煮黑引手銅物取付出來之事

一兩面間中襖 下等四篇張

右仕様搔骨立合下張厚紙一篇半紙二篇上張白地押形唐紙張花塗打附縁打木
花塗木製引手取付出來之事

一襖 高六尺 幅三尺 片面五返張

右仕様骨張中西ノ内。箋張中半紙三返。打付張中西ノ内。袋張中美濃紙。
上張上間似合紙ニテ張上ケ

○襖間中両面張一本ニ付紙ノ員數

骨ノ張	西ノ内ナレバ 二十四枚	美濃紙ナレバ 三篇掛 八十一枚
	小西紙カ半紙ハ 四十二枚	二篇掛 五十四枚
打付張	西ノ内ナレバ 二十六枚	三篇掛 百二十四枚
	小西カ半紙ハ 四十五枚	二篇掛 八十枚
上張	判唐紙、宇田唐紙(好ミ次第)	美濃紙ナレバ 二十六枚
		小西カ半紙 四十五枚
		浮張

○一組ノ工程(二日)

骨ノ張 三十坪 袋張 三十坪

上張 十坪 ベタ張 三十坪
箋張 四十坪

○張附十一返張仕様書

一地附及襖共張付十一返 何十何坪何合

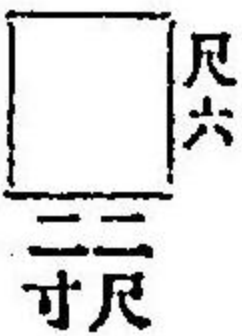
右仕様骨ノ張打付張張合箋張四返箋ノ張致シ袋張二返清張共都合下張十返
張ニ張立上張リ上等烏ノ子紙張立四分一在來ノ品柄ニ倣ヒ仕拵へ隅々留
鏝付合釘共取付出來可致事

右一坪ニ要スル紙數

骨ノ張	一返	西ノ内紙	二十四枚
打付張	全	全	二十四枚
箋張	四返	判紙	百九十二枚

箕ノ張	一返	細川紙	二十六枚
袋張	二返	半草美濃	七十枚
清張	一返	西ノ内紙	二十四枚
上張		上鳥ノ子紙	十枚

但シ出来合ノ
尺六鳥子



○壁紙張附仕様書

一壁紙張附

何坪何合

一右仕様壁下地張紙西ノ内一返袋張半紙貳返清張細川紙一返張立上張紙見本之通西洋紙無地色紙巾木際天井際縁リ紙ハ見本ニ倣ヒ唐草模様形置總テ半紙ニテ繼目五厘以内ニ裏打致シ入念張方可致事

○漆喰壁へ紙張り工事仕様書

一各室塗壁面ハ棕桐刷毛ヲ以テ能ク拂ヒ落シ而シテ下張り半紙反古厚紙(江戸川其他洋紙類ハ除ク)用ヒ澁煎殿糊ヲ以テベタ糊ニ爲シ張り付打刷毛ヲ以テ能ク塗壁面へ打付袋張り二編前全紙ヲ生麩糊ニテ張り合セ尤モ矧キ目一様ナラザル様廻リ切紙ヲ遣ヒ且縦横ニ張り合セ上張り長卷キ唐草模様附ノ洋紙壁紙ニシテ質ノ善良ナルヲ用ヒベタ糊ニ仕付矧ギ目模様等ハ齧齧セザル様注意ヲ加ヘ張り合セ廻リ同質ノ縁リ紙ヲ張り合セ何レモ柱及ビ各長押巾木着等壁決リ矧先キ奥ニ張込ミ入念切付ベキ事

但シ上等室ノ上張り巾廣長尺ニシテ浮出シ模様付ノ壁紙ヲ用ヒ矧ギ即チ目喰繼ハ平坦ナル輕石ヲ以テ摺リ落シ前同斷ベタ糊ヲ付弛ミナク且模様齧齧ナキ様入念張り合セ廻リ縁紙仕様等前全斷ニ張り合セベキ事

一 浮キ出シ模様附ノ壁紙ヲ張リ合ヌ上室ハ切付悉ク四分市止メ該四分一ハ
檜乾燥柱目材ヲ用ヒ見付五分ノ大サニ削リ出角大面取黒上花塗リ可成通
シ物ヲ用ヒ隅々目違ヒナキ様止メニ切り合セ銅煮黒目銀ヲ七寸間内外ニ
打付ベキ事

○漆喰壁へ張付仕様書(下地ハ木造張瓦ノ上へ漆喰塗)

右仕様壁張付中塗漆喰へ下張細川紙一返袋張半紙二返清張美濃紙一返都合
下張四返張立上ハ張紙ハ常所見本之通上等形紙ヲ以テ模様形取合際廻リ
縁リ紙張繼手ハギツギニシテ美濃紙ニテ裏打致張立四分一半丸形舶來金
色塗隅々留メ仕合折釘一尺間以内ニ彫込隠シ釘打取付可致事
(塵仙花ヲ漆喰壁へ張付クルニハ布海苔ヲ用ユ)

○張付壁仕様書

右仕様何々室天井總体(廊下除キ)各室ノ分地付共張付下地大判チリ紙一返袋張
上半紙二返上張西ノ内又ハ西洋紙ニテ張立廻リ花塗三分角四分一銀打
致シ出來可致事

○地付張天井共六尺四方一坪ノ紙員數

骨	四ノ内ナレバ 小西カ半紙	二十六枚 四十五枚	箕張	美濃	三篇掛八十一枚 二篇掛五十四枚	小西カ半紙	三篇掛百二十枚 二篇掛八十枚
打付張	四ノ内ナレバ 小西カ半紙	二十六枚 四十五枚	浮張	美濃紙	二十六枚	小西カ半紙	四十五枚
上張リ	判唐紙カ字田唐紙	二十四枚	上張				
	上間似合紙	十枚					

中間似合紙	十一枚
形置唐紙	二十六枚
白服紗唐紙	六枚
青土佐紙	二十八枚
有馬唐紙	二枚
萬平紙	二枚

○地付張附六返張仕様書

右仕様骨ノ張中西ノ内。箕張中半紙三枚掛。打付張中西ノ内。袋張中美濃紙。浮張中美濃紙。上張上間似合紙ニテ張上ケノ事

○張付天井五返張仕様書

右仕様骨ノ張厚仙過。打付張半紙。袋張中美濃紙。浮張中美濃紙。上張上間似合紙ニテ張上ケノ事

○四分一

長貳間六分角上花塗(又中花塗)四分一合釘ニテ打付長一間四分角。全
又煮黒味紙ニテ打付クルコトアリ

○蒔繪下地

右仕様下地上間似合紙。中美濃紙二返裏打

○障子紙 (二本ニ付)

御殿向上ノ口間中腰障子美濃紙 十五枚
 全 半明障子 全 十枚
 全 間中障子 全 十八枚
 間中腰障子中美濃紙 十四枚
 半明障子 全 十七枚
 連子窓高三尺六寸西ノ内紙張 十三枚
 田舎間九尺二枚建腰障子上美濃紙張 二十三枚
 全 明障子 全 二十七枚
 全 四枚建腰障子 十一枚
 蠟引障子
 西ノ内紙 十六枚 生蠟 九十目
 炭 百八十目 生澁蕨粉 九勺ヅ、
 油引障子

西ノ内紙 十六枚 荏ノ油 貳合前後
 生澁蕨粉 九勺ヅ、
 障子ハ美濃五卷ヲ繼立テヨリ張リ了ル迄ヲ一日一人ノ工程トス

○紙ノ種類

一 奉書ハ一帖四十八枚 生漉上中下並大上中下中上中下アリ
 一 西ノ内紙 長一尺五寸五分 巾一尺五分 一帖四十枚 厚上中下並厚上中下アリ常陸、上野ヲ最トス
 一 美濃紙 直紙又ハ書院紙トモ云フ 長一尺三寸五分 巾九寸五分 一帖四十八枚 十帖ハ四個ヲ一丸ト稱ス生漉薄生漉上中下アリ産地、美濃土佐等
 一 半紙 長一尺一寸五分 巾八寸五分 一束百枚一帖二十枚十帖ハ六個ヲ一丸ト稱ス産地ハ岩國、土佐、駿河、伊豫等ニシテ上中下アリ
 一 細川 美濃ト同版一帖四十八枚

- キ 天氣都合ニテ製紙ニ着手スルナリ
- 一 奉書紙原料ハ楮ノ根部ノ厚キ皮ヲ採テ充分漂白シタ物ニ白米ノ糊ヲ加ヘテ厚味ニ抄キ上ゲ更ニ楮ノ生皮ニテ擦テ光澤ヲ出ス越前ノ武生産ハ著名ノモノナリ四十八枚一帖五束ヲ以テ一櫃ト呼ブ
- 一 杉原紙一名糊入播州杉原村ニテ抄出シ初メタルヲ以テ此稱アリ
- 一 蕨花紙ハ蕨花ノ枝ト其根ノ皮トニ膠汁ヲ交ヘテ專ラ夏日ニノミ抄出スナリ薄葉紙ト云フモ此一種ナリ鳥ノ子紙ハ即チ厚口ノ薄葉紙ナリ
- 一 間似合紙ハ鳥ノ子紙ノ一種ナルモ幅廣ニテ恰モ半間ノ間ニ合フ處ヨリ此名起リタルナリ屏風襖ヲ貼ルニ廣ク用キラル
- 一 典貝帖紙ハ精巧ナル楮ヲ最モ薄ク抄キタルモノニテ紙質柔カナル故ニ寶石類及貴重ナル細工物ヲ包ムニ用ユ

○糊ノ製法一斑

英四斤(本邦ノ五百目位)ノ上等ノ小麥粉ニ少シ宛水ヲ加ヘ普通ノ「ヒメ」糊位ニ煉リテ沸ヘ湯ヲ注ギ白色ノ消失スルマデ絶ヘズ激シク攪キ交スベシ但シ使用ノ目的ニ從フテ製法ニ多少ノ差異アリ左ニ其大要ヲ示ス

- 第一 通常ノ糊ヲ製スルニハ上等ノ小麥粉五百目ヲ「ヒメ」糊位ニ煉リテ之ニ沸湯ヲ注キ絶ヘズ激シク攪キ交ゼ全ク白色ヲ失ナフヲ度トシテ止ム
- 第二 擬革紙及ビ厚紙ニ使用スル糊ノ製法モ亦前ニ同ジク唯其異ナル處ハ沸湯ヲ注ク前ニ拾五匁ノ明礬ヲ和スルノ一點アルノミ
- 第三 ペンキ塗若クハヴァニス塗等ノ面上ニ使用シ或ハ其他強キ粘着力ヲ要スル場合ニ使用スル糊ヲ製スルニハ先ヅ第一法ニ從ヒテ小麥粉ヲユルク煉リ糊貳合ニ付一匁ノ割合ニテ明礬ヲ加ヘ鍋ニ入レテ之ヲ文火ニ掛ケ絶ヘズ攪和シテ沸立タセ濃クナラバ火ヨリ下シ冷ナルヲ待チテアラビヤゴムノ稀液ニ溶解シテ用ユベシ

第四 擬革紙等ヲ袋張ニスルニ用ユル糊ハ第三ノ冷却セシモノヲ其儘ニ使用スベシ

右五百目ヲ以テ製セシ糊ハ一人一日ニ使用スルニ充分ノ量ナリ

一坪ニ付糊ノ量

骨ノ張	二十目	袋張	十目
「ベタ」張	二十目	上張	二十目

第十二編 疊職之部

○疊仕様書

疊

有合床相用上等備後表
縁絹地横綿入小紋縁

何帖

右仕様現場本取致シ有合床相渡候間長巾厚薄改メ使用刺糸信州産上等青麻
糸相用刺方致シ頭板造リ置床コ表へ豎莞苳貳寸位イ針足七分千鳥ニ縫
夫ヨリ表ヲ張置頭板入縁刺方平刺上細川紙ヲ入男針五分女針三分ニ縫返
シ縁下へ「スグリ」藁ヲ附斑ヲ取り針足七分ニ縫、縁巾一寸貳分ニ仕上ケ敷
合小紋明細ニ合セ框板刺方モ、綴縫針足一寸五分ヲ以テ仕上ケ入念出來
敷込之事

疊

掛縫拾三通リ床上等備後表
絹地綾織横布入小紋縁

右仕様現場本取致シ新規床拵致シ刺方頭板針足一寸八分ヲ以テ縫、縁下へ
豎莞苳巾貳寸位ニ入針足九分ヲ以テ千鳥ニ縫、夫レヨリ表ヲ張置縁刺方
平刺方上細川紙ヲ入男針五分女針三分ニ縫返シ縁下へ「スグリ」藁ヲ附斑ヲ

取リ針足六分ニ縫ハ縁幅一寸二分ニ仕上ケ敷合セ小紋明細ニ合セ框板刺方モ、綴縫針足一寸五分ヲ以テ仕上糸ノ義ハ信州産上等青苧ヲ相用ヒ入念出來敷込可致事

一疊 掛縫菰裏十一通床中等備後表
布織出シ小紋縁

右仕様現場本取リ致シ新規床コ拵致シ刺方頭板針足貳寸ヲ以テ縫ハ縁下へ横莞莖ヲ入レ夫ヨリ表ヲ張置キ縁刺方平刺上細川紙ヲ入レ針足男針六分女針三分ニ縫返シ縁下ニスグリ藁ヲ付ケ斑ヲ取リ針足八分ニ縫ハ縁幅一寸貳分仕上ケ框刺方モ、綴縫針足一寸五分ヲ以テ仕上ケ縫糸信州産上等青苧ヲ相用ヒ入念出來敷込ノ事

一疊 壁一間 巾間半 床十三通綴縫備後表紺布縁付

右仕様菰裏十三通新床厚サ一寸八分切廻シノ上目方五貫五百目針數五十五立真菰四ツ網堅菰二枚遣イ糸百目掛四分遣イ備後表三配折底段底ヲ撰ビ色揃布紺縁四ツ割黒紙入糸掛藁入江戸仕立框板共清水改メ敷合等仕上

(表代糸框板藁菰代) 若干

手間 疊職 七分六厘

一疊 (並) 床十一通綴丹波表縁布縁付

右仕様菰裏十一通り綴新床厚サ一寸七分切廻ノ上目方四貫五百目針數四十五立真菰三ツ網堅菰二枚掛糸百目掛二分五厘遣イ丹波上折底段底撰色揃布紺縁四ツ割黒紙入糸掛藁入框板入清水改メ敷合セ等仕上

手間 疊職 四分八厘

一疊 (上無縁) 床十通綴琉球表無縁

右仕様菰裏八通綴新床厚サ一寸七分切廻ノ上目方四貫目針數四十五立真菰三ツ網堅菰一枚掛糸百目掛一分八厘遣イ琉球表無縁角仕立框板入清水改メ敷合セ等仕上

手間 疊職 四分

一疊 (下無縁) 床八通綴琉球表無縁

右仕様菰裏八通り綴新床厚サ一寸七分切廻ノ上目方三貫目針數三十五立眞菰一枚三ツ網掛糸百目掛一分五厘遣イ琉球無縁仕立敷合等仕上

手間 疊職 三分八厘

一疊表換 備後表布紺縁付

右仕様在來古床ニ備後三新表折段底撰ビ布紺縁四ツ割黒紙入新規ニ取換江戸仕立清水改メ敷合セ等仕上

(表代、縁紙、框板代、糸代)

手間 一分九厘

一並表換 全 丹波表全斷

右仕様在來古床丹波新表折段底撰布紺縁四ツ割黒紙入新規取換縁及框板等入清水改メ敷合等仕上

(表代、縁紙、框板、糸代)

手間 一分五厘

一無縁表換 全琉球表無縁

右仕様古床ニ上琉球新表ニ取換無縁角立清水改メ敷合セ等仕上

(表、糸代)

手間 一分

一薄縁

一表備後四配大紋縁裏早島

一表尾ノ道布染紋縁裏近江

一表早島絹赤縁裏琉球

一表全 布赤縁裏琉球

一表裏全斷縁紺布縁

上等墨針目 七分刺

中等全 八分刺

下等全 壹寸刺

小紋縁全 九分刺
 高宮縁全 壹寸刺
 白絹小紋縁全 九分刺

○疊新床通數目方刺手間表

○京間ノ部

通	數	針	數	目	方	刺手間	摘要
十八通(両面)厚二寸二分	五六分歩	閉堅縫針數	百四十刺立	十貫三百目附	二人八分	裏近江表付	
十五通(全)厚二寸		閉堅縫針數	百二十五刺立	七貫八百目附	二人	全	
十四通		全	九十刺立	七貫三百目附	一人八分	全	
十三通		全	八十五刺立	七貫目附	一人五分	全	
十二通		閉掛縫針數	七十刺立	六貫目附	一人二分	全	

十一通	閉筋縫針數	六十一刺立	五貫目附	五分四厘	裏菰付
十通	全	五十五刺立	四貫五百目附	四分	全
九通	筋縫	五十刺立	四貫目附	三分二厘	全

○六尺間ノ部

十三通	閉掛縫針數	八十五刺立	六貫五百目附	一人四分	裏近江表付
十二通	閉筋縫針數	七十七刺立	五貫八百目附	一人一分	全
十一通	全	六十一刺立	五貫目	五分二厘	裏菰付
十通	全	五十五刺立	四貫七百目	四分	全
九通	全	四十三刺立	四貫百目	三分	全
八通	全	四十刺立	—	二分四厘	全
八通	全	三十七刺立	—	二分二厘	—

(葉糸油ヲ除キタルモルモノナリ)

○疊表刺手間

- 一新備後表大小織紋縁 一疊ニ付 九分五厘役
- 一表裏返全斷大小紋縁替 全 六分役
- 一新備後表紅絹縁 全 八分役
- 一新備後早島表紺布縁 全 四分役
- 一表裏返全斷縁替 全 二分二厘役
- 一織紋縁ノミ縁替 全 四分役
- 一紅絹縁ノミ縁替 全 三分五厘役
- 一紺布縁ノミ縁替 全 一分四厘役
- 一琉球表布紺縁 全 二分八厘役

- 一表替全斷 全 一分四厘役
- 一全縁ノミ縁替 全 一分二厘役
- 一琉球表無縁表替 全 一分四厘役
- 一全表裏返シ 全 一分役

○賃 錢

十二月ハ賃錢ニ割増ナリ如何ントナレバ疊ノ表替等ハ概シテ年一回位ニシテ正月ヲ迎フル爲メ一般ニ表替ヲナス故ニ平素ノ閑散ニ引換ヘ甚シク多忙ナルヲ以テナリ疊職ハ一年ノ生活費ヲ十二月ニ收得スルト云フモ差支ナシ一普通疊八帖ヲ以テ一人役トス

○疊表價格其他調

代價ハ明治三十六年五月調
東京市内ニテ

名稱	寸法	重量 二十枚	代價 二十枚	摘要
備後産本口	六三 尺尺	五貫五百目ヨリ	十四ヨリ	上等ノ表ニシテ客間等 ニ用ユ
中次六配表	全	七貫目マデ	十五ヨリ	
全四配表	全	六貫目マデ	七四五十錢ヨリ	全
全三配表	全	五貫目マデ	九四五十錢マデ	
引通縁リ付表	全	四貫目マデ	七四五十錢ヨリ	全
引通縁リ無表	六三 尺尺	三貫目マデ	七四五十錢マデ	
引通長髭表	全	四貫目マデ	三貫ヨリ	通稱尾ノ引表ト云フ
備中産 中次早島表	全	三貫二百目ヨリ	四四五十錢マデ	
中次小髭表	五尺八寸 二尺九寸	四貫二百目マデ	五四五十錢ヨリ	通稱本引表ト云フ
		三貫二百目ヨリ	五四五十錢マデ	
		二貫七百目ヨリ	六四ヨリ	上等ノ表ニシテ客間ニ 用ユ
		三貫七百目マデ	八四五十錢マデ	
		二貫六百目マデ	二四八十錢ヨリ	中等ノ家屋ニ用ユ
		二貫六十錢マデ	二四八十錢マデ	
			二四六十錢マデ	貸家向キニ用ユ

(備考)本表ハ通稱備後表トテ三備ニ産出ス表外ニテ流備前引表、播引表等
アルモ略ス流備ハ普通ノ部屋ニハ用ヒズ床間、神社等ニ用ユ表類ヲ
他へ輸出スルニハ四五枚ヅ、一個ニ荷造ス尾ノ道ヨリ東京迄一

個ニ運賃六十錢位ナリト云フ
中次物ニテ奥州、房州、久留米、加賀地方ニ産出スルモ品質ハ三備ニ比
シテ劣等ノモノニシテ産額モ他ニ輸出スル程ニ至ラズ

名稱	寸法	重量 二十枚	代價 二十枚	摘要
遠州産 諸目表	五尺八寸 二尺九寸	二貫目ヨリ 二貫五百目マデ	二四ヨリ 二四六十錢マデ	引通縁附ニシテ貸家向 キナリ

○青 蕙

通稱琉球表

名稱	寸法	重量 二十枚	代價 二十枚	摘要
豊後産 細表	六三 尺尺	四貫五百目位	二四九十錢ヨリ	丈夫向キノモノナルモ 見バエ悪シキ爲メ下等 ノ部屋ニ用ユ
全太	全		二四四十錢マデ	
遠州産 内山表	五尺八寸 二尺九寸		二四五十錢ヨリ	全斷其劣等ノモノハ相 包品ノ上ヲ包ミニ用ユ
全上 田表	全		二四八十五錢マデ	

全氣賀表	全	二圓八十錢ヨリ
全名表	全	二圓十錢マテ
		一圓八十錢マテ

三百五十四

以上表類ハ織班及疵ナク本草ヲ織込マズ錆ナキ色揃ヒモノ。
寸尺充分ニシテ重量アルモノヲ撰ブベシ

○疊縁

名稱	寸法(一疋)	重量(一疋)	代價
越中産生布	長五十尺 幅一尺	貳百七十目位	一圓貳十錢乃至一圓九十錢

産地ヨリハ百反或ハ百貳十反ヲ一個ニ梱包シテ他國へ輸出ス

染布	一反長二十五尺 巾一尺	百六十目位	七十五錢乃至一圓三十錢
----	----------------	-------	-------------

幅ヲ五ツニ裁チテ用ユルトキハ一反ヲ以テ疊十二枚半ニ使用シ得

高宮紺縁ハ上等ノ麻ヲ以テ織リタルモノニテ紺縁リノ最上品ニシテ松井田縁ハ之レニ次グ越中産ト雖上下アリ本松井田縁一反ハ十六帖分ナリト云フ高宮縁ノ柿色ナルヲ柿高ト稱ス

○江州産疊縁 大津市物産陳列所内 八幡町西川甚五郎氏出品

茶高宮縁布	京間十疊取	代價 壹圓三十錢
紺高宮縁布	壹反	壹圓五十五錢

明治三十七年三月調

以上ハ一般ニ使用セラルモノニテ裝飾的ニハ左記ノ如ク

織大紋縁織小紋縁等アリ絹小紋縁壹卷ハ疊十二帖半分ナリ紅梅絹縁等アリ

二重縁ニテ

浮織縹網縁沈織縹網縁アリ

○ 黒 紙

黒紙ハ六十帖分ヲ一捆トス疊一帖ニハ三枚乃至四枚ヲ使用ス代價一枚ニ付八毛ヨリ一厘迄東京ニテハ王子邊ニテ製造ス

○ 疊 糸

名 稱	長 サ	重 量	代 價	摘	要
糸	五 尺	百四十目位	五十五錢ヨリ 六十錢マデ	一把	ハ六百本入廿四把入三束 ヲ一「コカリ」ト稱ス

長野縣下ニ最モ多ク産ス概シテ寒國ヨリ産出ス麻ヲ水晒ラシニシテ撚リタルモノニシテ疊一疊分ニ貳十本ヲ要ス(一把正味ハ五百四拾本也)

地 數	糸	五 尺	凡百四十目位	四十五錢ヨリ 五十五錢マデ	全 斷
-----	---	-----	--------	------------------	-----

麻ヲ水ニ晒サズ製造セシモノユヘ其色黒味ヲ帶ブ刺立ノ際油ヲ要セズ

ト云フ

目 糸	五 尺	一圓ニ付 貳百八十目ヨリ	三束ヲ一「コカリ」ト稱ス一束 ハ廿八把位ナリ
-----	-----	-----------------	---------------------------

目糸ハ水ニ晒シタルモノト晒サルモノト二種アリ産地前全斷

○ 頭 板

名 稱	幅	厚	相	包	代 價
頭 板	幅一寸五分乃至一寸八分 厚一分五厘位(稍々卵形 チナス)	二百疊分一「コカリ」 (即チ四百枚)			貳圓ヨリ 貳圓五十錢

産地ハ甲斐産ヲ上トシ日光産之ニ次グ

第十三編

井戸職之部

(三百五十九ノ前附)

○工場内雑水井戸取設仕様書

一 堀井

壹ヶ所

但シ井側數ハ化粧側共七側

一 右仕様井側木品杉赤身壹番大貫三ツ切ニシテ内部荒鉋削リ傍正直キ能ク突キ合セ竹合釘貳ヶ所ツ、立徑外法三尺ニ組立籬竹大巻籬三通リツ、掛ケ化粧側ハ前全木四ツ木ニシテ内外共荒鉋削リ前全斷組立巾壹寸貳分 厚正壹分五厘鐵籬貳タ通り掛堅メ据付可致事

一 堀方ノ義ハ現場差圖ノ所エ地面上口八尺四方ノ仮枠ヲ組入段々ニ堀下ケ六側分堀附根側建入レ能ク据付井側段々ニ繼建仮枠抜キ取壹ト側毎ニ飯蓋致周圍ヨリ土入レ突キ堅メ入念埋方致シ合口槓皮ダ充分ニ飼堅メ水替エ致シ井底エ大玉砂利壹ト并べ敷込ノ上荒目砂壹寸通敷平均シ清浚エ共入念可致事

(備考)

井戸側ニ使用スル大卷竹繩ト稱スルハ普通八九寸廻リノ眞竹(越後地方ニハ眞竹ナキヲ以テ淡竹)ヲ八ツ割トナシ井戸内徑ニ應ジテ左ノ割合ヲ以テ壹ト繩ニ編立使用ス

井戸内徑四尺ノ時	約	八本
全 三尺五寸ノ時	全	六七本
全 三尺ノ時	全	五六本
全 貳尺五寸ノ時	全	四五本

○堀抜井戸取設工事仕様書

一 堀抜井戸

一ヶ所

一 右仕様掘方ハ地面上口九尺四方ノ板枠組入漸次堀下ケ井戸側五側木品檜赤身勝厚貳寸五分仕上ケ口内徑三尺五寸高サ六尺内外共圓形ニ上鉋削致

シ正直能ク突合セ竹合釘三通ツ、入輪竹大卷輪六通側重ネ壹尺ヅ、化粧側壹側口内徑三尺七寸高貳尺五寸内外正直共前全斷鐵輪中貳寸五分厚三分三筋掛ケ根側底板檜厚三寸ニシテ張込圓徑壹尺ノ穴明ケ建入レ能ク繼建板枠拔取廻リ入念埋方致シ板榿建高サ十間餘貳重高足代取建鐵大アヲリニテ底板ヨリ九間アヲリ掘致シ木榿杉丸太末口五寸五分眞峠六寸五分ニ削リ貳ツ割ニ致シ水通シ穴三寸貳分ニ彫明ケ鐵輪中壹分厚壹分壹尺間ニ掛ケ削リ目楨皮ダ打込繼手印籠ニ仕拵銚三丁ヅ、打木榿打込附榿楡圓徑壹尺壹寸長一尺五寸ニ削リ榿穴六寸ニ彫明ケ打込榿入替大鐵棒ニテ眞岩下本水所迄突下ケ竹榿八寸廻リ以上繼手五德鎌ニ拵銅チロリ輪ヲ掛ケ上下ヨリ楨皮ダ打堅メ榿内小竿ヲ通シ水子竹ニテ砂汲上ゲ清水呼出シ水替致シ井戸側合口廻共總体差水無之様楨皮ダ打堅メ掃除清替共致シ足代取拂跡掃除丁寧ニ可致事

但シ殘土最寄指圖ノ場所へ持運ヒ敷均シ可致事